

## II 事業報告



## 1. 看護生涯学習専門部会



## 1-1)-①

事業名	公開講座開催事業						
対 象	地域住民						
事業組織	甲斐鈴恵 上田智之 尾井貴子 他学内教員 (宮崎県立看護大学)						
事業計画	目的： 大学の有する知的財産、人的資源等を広く地域社会に開放し、社会における大学の使命を果たす。						
	実施内容： 本学教員や各分野で活動している方を講師に、本学の独自開催や他機関との合同開催などの方法により、本学又は県内各地で公開講座を開催する。						
実施状況及び結果	1. 事業実施報告						
	①過去に実施した「いきいき健康茶屋」(健康測定と運動)に類似した講座の要望の声があり、本年度は、「からだもこころも生き生き健康生活」をテーマに公開講座を本学にて実施した。						
	②本学ホームページ、宮崎県ホームページ、県立図書館などへポスターを案内した。また、朝日新聞・宮日新聞等の地元紙に広報を行った。自治会等にも案内を行った。						
	2. 開催実績						
		日時	講座名	講師	参加者		
					申込者	支援者	計
	1	7月25日(火) 14:00~15:00 定員:100名	万葉集に親しむ	大館真晴(宮崎県立看護大学 教授)	5	4	9
2	7月25日(火) 15:15~16:15 定員:30名	災害時に役立つ感染予防	勝野絵梨奈(宮崎県立看護大学 講師)・武田千穂(助手)	11	5	16	
3	7月27日(木) 午後 定員:25名	こけない身体づくり、生活の中に運動を ー身体チェックから運動実践につなげよう!ー	申間敦郎(宮崎県立看護大学 教授)	26	15	41	
4	8月7日(月) 14:00~16:00 定員:25人	講座名:加齢変化を知って、老いも若きものばそう健康寿命! ーからだの変化と生活支援・自宅でも簡単にできるいきいき健康体操ー	重久加代子(宮崎県立看護大学 教授)・原村幸代(助手)	23	6	29	
5	9月4日(月) 13:30~15:00 定員:30名	いつまでも若々しく脳活性!	甲斐鈴恵(宮崎県立看護大学 講師)資格: おもちゃコンサルタント	24	5	29	
		合計		89	35	124	
表1 一般公開講座実績							
*講座1と講座2は同日実施。申し込みは、各講座ごと可。							
*講座3と講座4は、セットでの申し込み。							
参加者の合計は89名であった。							
3. 受講後の感想など							
第1回講座では、「万葉集には以前より関心があり、今回更に万葉集が好きになりました」「ものの見方、感じ方、考え方に豊かさを感じました」、第2回講座では、「防災グッズの点検を今一度確認する機会となりました」「紙マスクや新聞紙でのスリッパ作りが特							

に役立った」、第3回講座では、「色々な測定で、現在の自分の状態を知る事が出来る」「正しい姿勢の再確認が出来ました。ウォーキングにも挑戦してみたいと思います。腕を曲げてふって!」、第4回講座では、「年を取った時に身体の機能がどうなるという体験(手袋・耳栓・ゴーグルを使った)がとても実感として感じました」「毎日のストレッチに役立てたいと思います」、第5回講座では、「脳や指先の活性化に役立ったと思う。子どもごころにかえて楽しめた」「おもちゃであそんでつい夢中になって集中している自分を観ることができました。脳の活性にいかに関わりました」

今後の公開講座について、「今年度と同じでも再度受けてみたい講座ばかり」「同じことでもいいので、人数の制限なく受講できるよう計画してほしい」など、同テーマを希望している感想が多かった。少数意見であるが、「生きがいの作り方、老後の過ごし方、余生を生き生きと暮らすには等、老人の生活について聞いてみたい」「病人看護の長続き方法」「栄養指導(高齢者)」「日常的な救急場面の対応の仕方(子供・高齢者など)」のテーマの希望もあった。

	居住地					合計
	①県北	②県央	③県西	④県南	未記入	
合計	4	57	2	5	17	85

	(1) 今回の講座をどのようにお知りになりましたか?(複数回答可)						合計	
	①大学ホームページ	②県庁ホームページ	③自治会回覧	④新聞	⑤県立図書館	⑥その他		未記入
合計	0	3	24	46	5	6	1	85

	(2) 講座の内容は役に立つ内容でしたか?					合計
	①とても役立つ	②役立つ	③役に立たない	④まったく役に立たない	未記入	
合計	80	0	0	0	5	85

学生の参加状況

人数： 実人数(2)人 延人数(2)人

評価  
改善点

参加者からは、どの講座も好評であり、来年度の実施の期待の声も多かった。  
 高齢者の生き生き健康生活づくりへの関心が高く、様々な講座名(5講座)で開催した。  
 受講者からは、7月期は初夏であり移動時が暑く、看護大学は交通手段が不便との意見もあった。来年度は、開催時期の検討も必要。場所については、健康測定や運動の実演では、機械機器の搬送もあるため、他会場での実施は困難であることから看護大学内での実施の可能性が高い。  
 広報を5月下旬より実施したが、7月の受講生が少ないことから、来年度、早めの広報を実施する。

次年度  
計画

平成30年度も、高齢者介護予防をテーマとして、健康測定・健康(健幸)体操、脳活性などの講座を予定。学内教員に内容を公募し、連続した講座とする。

記載  
責任者

甲斐 鈴恵

## 1-1)-②

事業名	神話のふるさと県民大学開催事業
対 象	宮崎県民
事業組織	宮崎県立看護大学（担当：大館真晴） 宮崎県観光推進課記紀編さん記念事業推進室（担当：川崎智子） 宮崎県立図書館（担当：坂本豊人）
事業計画	目的：本事業は以下に示した3点を目的とし事業活動を展開する。 ・地域に対する研究成果の還元および学習機会の提供 ・他機関と連携した効果的な運営でより多くの県民に研究成果を届ける ・地域の必要とする学術情報の提供
	実施内容：本学又は他機関との合同開催により公開講座を開催する。
実施状況 及び結果	<p>1. 開催方法</p> <p>平成29年度は、県立図書館・県記紀編さん記念事業推進室との共催で、「神話のふるさと県民大学」として計6回の講座を実施した（予定では7回、台風のため中止）。講師の選定および出演交渉は本学が担当し、会場提供は宮崎県立図書館が担当した。また、当日の運営や広報活動、アンケート調査等の実施については、県記紀編さん記念事業推進室が担当した。</p> <p>2. 開催実績</p> <p>（第1回）8月5日（土）13：00～15：30 定員150名（参加者数137名） 延岡市市役所講堂 【対談】能楽に登場する神々-神事能と内藤家旧蔵の能面- 井上 さやか（奈良県立万葉文化館指導研究院） 増田 豪（延岡市内藤記念館専門学芸員）</p> <p>（第2回）8月19日（土）13：00～15：30 定員100名（参加者数135名） 宮崎県立図書館2F研修ホール 【鼎談】患者の教え 上野 誠（奈良大学教授） 横山 美和（フリーアナウンサー） 大館 真晴（宮崎県立看護大学教授）</p> <p>（第3回）9月2日（土）13：00～16：00 定員100名（参加者数133名） 宮崎県立図書館2F研修ホール 【鼎談】古代にみる日向 神田 典城（学習院女子大学学長） 橋本 雅之（皇學館大学教授） 大館 真晴（宮崎県立看護大学教授）</p> <p>（第4回）9月9日（土）13：00～15：30 定員100名（参加者数117名） 宮崎県立図書館2F研修ホール 【鼎談】ひむか女子旅の魅力！-日向神話をめぐる旅- 平藤 喜久子（國學院大學教授） 上大岡 トメ（イラストレーター） 加藤 沙知（m r t 宮崎放送アナウンサー）</p>

	<p>(第5回) 9月17日(日) 13:00~15:00 定員300名 ※台風接近のため中止 宮崎市民プラザオリーブホール 【朗読・音楽会】おはなしとおんがくの森～日向神話を題材に～ 横山 美和 (フリーアナウンサー) 他4名</p> <p>(第6回) 9月23日(土) 14:00~16:00 定員100名 (参加者数125名) 宮崎県立図書館2F研修ホール 【鼎談】みやざき百人一首 伊藤 一彦 (宮崎県立図書館名誉館長・本学客員教授) 小島 ゆかり (歌人) 小島 なお (歌人)</p> <p>(第7回) 9月30日(土) 13:00~15:30 定員100名 (参加者数108名) 宮崎県立図書館2F研修ホール 【講演】日向神話の魅力を探る 毛利 正守 (皇學館大学教授)</p> <p><b>3. 広報</b> [周知・募集] 県庁HP、新聞、チラシ配布、ポスター掲示、テレビCMにより行った。 ※この業務については県みやざき文化振興課記紀編さん記念事業推進室が担当した。</p> <hr/> <p><b>学生の参加状況</b> 人 数： 実人数 ( ) 人 延人数 ( ) 人</p>
<p><b>評価 改善点</b></p>	<p>講座終了後に受講者へのアンケートを行った。この業務については県記紀編さん記念事業推進室が担当した。 当事業への参加者は合計755名(前年度636名)と参加者数が増加した。(第2回、第3回については途中応募を締め切ることとなった)。次年度はより多くの参加者を得るため、会場設営の方法について、県立図書館と検討を行いたい。また、各回の講座で行ったアンケート結果においても、おおよそ7割以上の参加者が「とても満足した」もしくは「ある程度満足した」と回答しており、非常に好評であった。改善点としては宮崎市以外の開催を行うことがあげられた。</p>
<p><b>次年度 計画</b></p>	<p>平成31年度は、2020年に本県で開催される国民文化祭や、本県の推進している宮崎県の神楽のユネスコ無形文化財登録を念頭におき、新たに神話と神楽に関する講座を開催したいと考えている。また、好評であった宮崎市以外の開催も考えている。</p>
<p><b>記載 責任者</b></p>	<p>大館 真晴</p>

## 1-1)-③

事業名	宮崎における子育て支援推進事業																																															
対象	宮崎県内の子育て中の子どもとその保護者																																															
事業組織	宮崎県立看護大学の小児看護学を担当する教員 片野坂 千鶴子 代表 (NPO 法人みやざき子ども文化センター) 甲斐 鈴恵 代表 (民間団体：グッドトイみやざき) 糸数 智美 代表 (子どもとメディアみやざき)																																															
事業計画	目的： 子育てに不安を感じることなく、楽しんで子育てができるよう、場所（おもちゃ広場）を提供し、助言・支援を行い、そこに携わる専門職者（看護職者・保育士・おもちゃコンサルタントなど）相互の連携を深める。また、入院している子どもの成長発達支援も行う。子育て支援における宮崎の課題である子どもとメディアの接触について実態調査・啓発を行う。																																															
	実施内容： 1. 大学内および県内各地において、大学所有のおもちゃを使って『おもちゃ広場』を開催し、子育て支援活動を行う。 2. みやざき子ども文化センターが中心に行っている子育てネット（民間団体の情報交換の場）に参加し定期的に子育て支援検討会を行い、行政や民間団体が行っている子育て支援の実際を情報収集し、今求められている宮崎県内における子育て支援のあり方を考える。 3. 子どもとメディアの接触について実態調査、および、啓発を行う。 4. 入院している子どもの成長発達支援を行う。 5. 子育て支援者の質向上の学習会を行う。																																															
実施状況及び結果	<p>1. 1) 大学では6月と9月の2回、計5日間の『おもちゃ広場』を開設し、子ども278名、大人334名の参加があった。大学祭で学生が企画するキッズコーナーにおいても遊びの場を提供し、親子187名の参加があった。親子の来場があるため遊び支援の要望があり、環境フェスタにおいても木のおもちゃ広場を開催した。学外かつ、宮崎市以外の活動として、地域貢献活動を求められている。今年度は、僻地開催の要望はなかったが、宮崎市内児童館から開催要請があり実施した。子どもがおもちゃで夢中で遊ぶ姿から「子どもの喜ぶおもちゃがわかった」「子育ての悩みは自分だけじゃないとわかった」などの感想もあった。保護者に実施した調査では、睡眠時間や食事やしつけについて、困りごととして抱えていることが明らかになった。子育て相談にも応じることができ、また、母親相互の情報交換が行える場所となり好評であった。『青島子育て交流ひろば』4月オープンに伴い、親子関係を育む推奨おもちゃの情報を提示し、運営スタッフの紹介を行った。</p> <p>&lt;大学内外の「おもちゃ広場」活動実績&gt;</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">時期(イベント)</th> <th colspan="4">大学内活動</th> <th colspan="7">大学外</th> </tr> <tr> <th>5月 大学祭</th> <th>6月 おもちゃ 広場</th> <th>9月 おもちゃ 広場</th> <th>特別支援 学校の 子どもたち</th> <th>10月 子育ての わっ フェスティ バル</th> <th>11月 子育て支 援 フェスティ バル</th> <th>8月・2月 環境 フェスタ</th> <th>10月 児童館 活動</th> <th>11月 小学校 活動</th> <th>12月 日向市 イベント</th> <th>5~2月 県病院 小児病棟</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実施日数</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>参加人数</td> <td>187</td> <td>429</td> <td>183</td> <td>66</td> <td>1000</td> <td>4000</td> <td>2100</td> <td>32</td> <td>1000</td> <td>300</td> <td>42</td> </tr> </tbody> </table> <p>&lt;「おもちゃ広場」アンケート結果&gt; 平成29年6月・9月実施 アンケート総計 67名 *334名の保護者対象。今年度1来場につき、1回の回答。</p>	時期(イベント)	大学内活動				大学外							5月 大学祭	6月 おもちゃ 広場	9月 おもちゃ 広場	特別支援 学校の 子どもたち	10月 子育ての わっ フェスティ バル	11月 子育て支 援 フェスティ バル	8月・2月 環境 フェスタ	10月 児童館 活動	11月 小学校 活動	12月 日向市 イベント	5~2月 県病院 小児病棟	実施日数	2	2	2	3	1	2	2	1	1	1	10	参加人数	187	429	183	66	1000	4000	2100	32	1000	300	42
時期(イベント)	大学内活動				大学外																																											
	5月 大学祭	6月 おもちゃ 広場	9月 おもちゃ 広場	特別支援 学校の 子どもたち	10月 子育ての わっ フェスティ バル	11月 子育て支 援 フェスティ バル	8月・2月 環境 フェスタ	10月 児童館 活動	11月 小学校 活動	12月 日向市 イベント	5~2月 県病院 小児病棟																																					
実施日数	2	2	2	3	1	2	2	1	1	1	10																																					
参加人数	187	429	183	66	1000	4000	2100	32	1000	300	42																																					

1. 参加回数(回)

	1)はじめて	2)2回目	3)3回目	4)4回以上
回答人数	43	14	6	4

2. 家族構成【人】

	2人	3人	4人	5人	6人以上
回答人数	3	35	16	3	0

3. 子ども数【人】

	1人	2人	3人	4人	5人
回答人数	48	16	3人	0	0

4. 「子育てでお困りですか」について

	そう思う	やや そう思う	どちらとも 言えない	ややそう 思わない	そう 思わない
1)起床・睡眠時間	7	20	6	7	24
2)食事時間・内容	9	35	8	5	7
3)しつけ一般	12	25	16	7	3
4)ふれあい時間の確保	6	12	16	10	19
5)子どもとの遊び方	6	14	17	13	13
6)テレビやゲーム・スマホの 利用の仕方	11	16	13	11	14
7)きょうだいへの関わり方	1	8	8	10	29
8)遊びの場・交流の場の確保	7	13	19	12	12
9)自分の時間がもてない	10	19	13	9	12
10)子育てに必要なお金	10	17	18	12	6

5. 父親などの協力について

	1)協力がある	2)時々協力がある	3)協力が無い
回答人数	50	16	1

6. ストレスの解消法について

	1)常に 心がけている	2)時々ある	3)ほとんどない	4)全くない
回答人数	13	48	6	9

7. ご自身のお子様誕生前に、乳幼児と関わる機会があった

	1)幼少の頃から 常にあった	2)時々あった	3)ほとんど なかった	4)全く なかった
回答人数	11	23	23	9

- 2) 特別支援学校の子どもたちが社会見学の一環として訪れ、合計3日間、実施した。社会活動体験の場として、日頃、受け入れられる施設に制限があるため、毎年、看護大学のおもちゃ広場に強い期待を寄せている。生徒37名、引率教員29名。また、児童発達支援施設の子どもたちや保護者、指導員達もおもちゃ広場を楽しみにしている。
- 3) 宮崎日日新聞主催の子育て支援事業『子育てのわっフェスティバル【10月】(1日間:1,000名)』などにも参加した。対象を未就学児の親子のみでなく学童期にも広げ、子育て相談、母親相互の情報交換の場などの子育て支援活動ができ好評であった。

2. みやざき子ども文化センターが中心に行っている子育てネットワーク形成事業に参加し、行政や民間団体が行っている子育て支援の実際を情報収集した。今求められている宮崎県内における子育て支援のあり方を考えるため、『未来みやざき応援フェスティバル2017』に企画から参加し、実行委員会からの要請で11月18日、19日はおもちゃ広場を開催し、約4,000名の親子が来場し、おもちゃ遊びを楽しめる場を提供した。また、子育てネットワーク主催にて、『第1回 子どもを生み育てやすいまちづくりを目指して』『第2回 子育て支援を語る会』をテーマにワークショップと交流会が行われた。
3. 子ども政策課と連携し、認定こども園協会等の協力を得て、「電子メディア接触による子どもと保護者の生活実態調査」を、宮崎市内、県南、県西、県北、各3~8園(20園)、2658名(2157世帯)に調査を行った。1652世帯(76.6%)からの回答があり、そのデータの分析結果を基に『子どもとメディアみやざき第1回フォーラム』を実施し、276名の参加があった。「乳幼児に安易にメディアに触れさせてはいけない」「このままで

	<p>はいけないと思っていたが、より一層その思いが強くなった」「電子メディアの危険、悪影響、今日の講演内容を親だけでなく、小・中・高校生に話して欲しい」等の感想があり、メディア接触についての啓発の一助となった。調査結果を基に報告書を作成した。</p> <p>4. 芸術と遊び創造協会と連携し、「子どもと保護者に笑顔と元気を！」をテーマとした学習会を開催した。県南地域の開催として、日南ことことの視察見学を含め、日南市で開催。26名のファミリーサポートセンター職員、保育園などの子育て支援関係者が、具体的な遊ばせ方や声かけの仕方について学んだ。年齢に応じた遊ばせ方の必要性や、具体的な遊ばせ方のヒントを得られたという感想があり、好評であった。</p> <p>5. 入院している子どもの成長発達支援の必要性から、現状把握、および、支援の方向性を定めるため、県立宮崎病院小児病棟にて10回『おもちゃ広場』を開催した。子ども21名、大人21名、実習学生13名の参加があった。「病棟にはないおもちゃに子どもの笑顔がはじけ、とてもよい刺激になった。生き生きとした楽しい時間となった」「子どもの笑い声や笑顔で病棟が明るくなった。子どもの笑顔にスタッフも癒やされた」「遊びは病気の子どもの癒やしです。こころを育む大切な時間」などの感想があった。</p> <p><b>学生の参加状況</b>  人数： 実人数（ 54 ）人 延人数（ 86 ）人</p>
<p><b>評価 改善点</b></p>	<p>宮崎市内、各市町村においては、子育て応援フェスティバルなど子育てイベントが充実し、親子が充実した時間を過ごす機会が増えてきた。また、市内中心部に子育て支援商業施設が常時設けられる予定である。イベントのみで終わるのではなく、保護者のニーズを捉え、子育ての悩みを解決できるように関わる等の商業施設との違いを組織メンバーが意識し、今後も継続して関わる。また、子どもに接する機会の少ない学生の学びの場ともなっているため、積極的に学生ボランティアを募集する。看護大学内、宮崎市内のおもちゃ広場の参加者からは、「育児をしている保護者の心の支えになるので、もっと多くの人に知らせたい」などの意見が聞かれ、「今度はいつか」と質問もあり地域住民からのニーズが高いことが伺えた。より多くの方々が開催日時・場所の情報を得やすいように、大学ホームページの活用やチラシ配布場所の拡大、新聞や育児情報誌への掲載等で広報活動を行った。学童が参加できる子育て支援のニーズも高いため、今後も継続して行っていく。そのために、実施する支援者のマンパワーの育成の必要性が望まれる。</p> <p>県内の子ども園等に通う乳幼児の保護者へ行ったメディア接触に関する調査結果を基に、フォーラムを開催した。多くの方が関心を寄せ、将来の子どもの育成に関心を寄せる機会となった。今後も、調査や啓発を継続して行う。</p>
<p><b>次年度 計画</b></p>	<p>1. 大学内および県内各地において、大学所有のおもちゃを使い『おもちゃ広場』を開催し、子育て支援活動を行う。活動の中から課題を見出し、行政とともに今求められている宮崎県内における子育て支援のあり方を考える。</p> <p>2. 子どもとメディアの接触について実態調査、および、啓発  1) 宮崎におけるメディア接触実態調査分析を行い、調査分析をふまえた啓発活動の実践を行う（宮崎版子育てリーフレットを作成）。  2) メディアに関する学習会、講演会を実施し、支援組織の連携を図り、子育て支援者の育成を行う。</p> <p>3. 入院している子どもの成長発達支援  入院している病児の健全な成長・発達を促し、遊ぶことで苦痛や緊張を忘れ、子ども本来のもてる力が発揮されるよう、おもちゃを使って子育て支援を実施する。（県病院小児病棟 5～10回／年）</p>
<p><b>記載 責任者</b></p>	<p>甲斐 鈴恵</p>

## 1-1)-④

事業名	中山間地域における思春期健康支援事業
対 象	中山間地域（モデル地区）の子どもおよび保護者・地域住民
事業組織	<p>統 括： 長鶴美佐子（宮崎県立看護大学・教授）          担当者：  <b>【宮崎県立看護大学】</b>          坂元夏美（助手），平賀未浦 *1，壹岐さより（講師） *2，長友舞（助手） *3  <b>【宮崎県立宮崎病院】</b>          高村一紘（医師），福永美紀（助産師）          （*1：7月～ *2：4月～12月まで *3：7月～産休・育休）</p>
事業計画	<p><b>目的：</b>          中山間地域では、心身の変化が大きい思春期に高校進学のために保護者の元を離れ生活することが多い。このため、自己の心身を大切に、セルフケアできる思春期の健康教育がより必要とされるものの、専門家の力を得にくいなどの問題もあり課題となっている。本事業はこのような観点から、中山間地域（モデル地区）の子どもおよび保護者・地域住民などを対象とした思春期健康支援を実践しながら、研究的な取り組みでそのあり方を検討する。</p> <p><b>実施内容：</b>          1) 思春期健康支援の実践          (1) 出前講座：子どもたちや保護者を対象とした思春期講座の開催          (2) 思春期健康支援に関わる人材育成          ・看護大生（卒業生も含む）や中山間地域における思春期健康支援に関わる人々とともに思春期健康支援活動を実施          ＊実践モデル地区として西米良村、諸塚村、椎葉村を予定          ＊学校側との調整が必要であり実施日未定          2) 研究          高校進学のために親元を離れ一人で生活することにより生じる思春期の問題を、生徒や保護者、思春期健康支援に関わる人々などへの調査から明らかにしていく（質的帰納的研究）。          本年度は研究実施のための準備を中心に行う。具体的な研究計画の立案を行い、研究倫理委員会を経て、関係機関・対象者への依頼を行う。</p>
実施状況及び結果	<p>1) 思春期健康支援の実践          (1) 出前講座          ①保護者・学校関係者を対象とした講座          第一回：平成 29 年 6 月、西米良村の家庭教育学級で 90 分の講座を実施。          演者・演題：長鶴美佐子「思春期の子どもを見守るために大切なこと」          参加者 40 名。アンケート 35 名中、大変良かった 30 名、良かった 5 名          第二回：平成 30 年 3 月、西米良村の家庭教育学級で 90 分の講座を実施。          演者・演題：高村一紘医師（県立宮崎病院）による「性感染の現状と課題」          参加者 43 名。アンケート 30 名中、大変良かった 18 名、良かった 12 名          ②生徒を対象とした講話          平成 30 年 3 月に下記のように思春期講座①「輝く人になりましょう～思春期の皆さんに伝えたいこと～」(60 分)と②「思春期の生活術」(30 分)を実施した。          ・西米良中学校(8 日)：3 年生(9 名)          ・諸塚中学校(9 日午前)：1・2 年生(27 名)と 3 年生(13 名)          ・椎葉中学校(9 日午後)：3 年生(20 名)</p>

	<p>③教材配付 講話「思春期の生活術」で用いたパワーポイント資料を、保健室で活用できるようラミネートして教材化し、それぞれの中学校に配付した。</p> <p>(2) 思春期健康支援に関わる人材育成 *前述の②に3月8～9日にかけて助手2名と本学4年生3名と、9日に3年生1名が参加した。学生4名とも、将来本県で思春期健康支援に携わることがを希望している学生であった。 *宿泊日の夜(8日)、長鶴が参加者の助手2名と4年生3名に対して「思春期健康教育の考え方」に関する講話を行い、ディスカッションを行った。 *諸塚中、椎葉中の講話では、それぞれ村保健師1名と教員3名の参加があった。</p> <p>2) 研究【中山間地域の思春期健康支援の現状と課題 ～高校進学で離村する中学生への支援に焦点を当てて～】 *研究計画の策定を行い、平成29年10月研究倫理委員会より承認を得た。 *平成30年2月より西米良村と諸塚村でインタビュー調査を実施した。インタビュー件数は合計29件である(内訳:離村経験者10件、保護者10件、保健師3件、学校関係者6件)。</p> <hr/> <p><b>学生の参加状況</b> 人 数： 実人数( 4 )人 延人数( 7 )人</p>
<p><b>評価 改善点</b></p>	<p>平成29年3月、8月、12月の3回、西米良・諸塚・椎葉村の村役場、教育委員会、中学校に出向き、事業の説明と協力を依頼し、打ち合わせを行った。これにより、三つの村すべての関係機関の理解を得、全面的な協力体制を築くことができ、本年度掲げた目標や計画はすべて達成できた。</p> <p>平成30年度の事業計画実施に当たっては、4月の中学校や村役場の人事異動を踏まえ、再度事業の説明と協力依頼に出向く必要がある。</p>
<p><b>次年度 計画</b></p>	<p>1) 思春期健康支援の実践 (1) 出前講座 ①保護者・学校関係者を対象とした講座 依頼により保護者・学校関係者を対象とした講話予定 ②生徒を対象とした講話 中学校における実践については、学校側の意向および計画を踏まえる必要があり、現時点では未定。</p> <p>(2) 思春期健康支援に関わる人材育成 本年度同様、思春期健康実践の場に学生の参加を促し、将来、本県の思春期健康支援を担う人材育成を行う。</p> <p>2) 研究【中山間地域の思春期健康支援の現状と課題 ～高校進学で離村する中学生への支援に焦点を当てて～】 引き続き、データ収集を行う(6月から椎葉村でインタビュー調査予定)。 その後、収集したデータの分析を行い、平成31年3月までに研究結果をまとめる予定である。</p>
<p><b>記載 責任者</b></p>	<p>長鶴 美佐子</p>

## 1-1)-⑤

事業名	中山間地域自治体のケーブルテレビ放送を活用した健康づくり事業
対 象	日之影町民
事業組織	宮崎県立看護大学：高橋秀治、松本憲子、中村千穂子、小野美奈子、中尾裕之 日之影町保健センター：伊山真由美、前田純子、古江美樹、押方秀樹、甲斐弥生、伊藤可南子
事業計画	<p><b>目的：</b>  本学では平成 26 年度より日之影町を保健師教育課程の実習フィールドの一つとしており、学生が実習を通して町内の一地区を受け持ち、地域の健康課題を明らかにし、解決に向けて保健活動を展開している。学生が直接住民へ働きかけることで一定の成果を上げており、今後の町の保健活動に学生の力を活用させてもらいたいと町より要望を受けている。一方で、学生が日之影町での保健活動を行う上で、若年者や労働者の健康課題の解決の必要性を捉えているが、介入が困難な現状がある。それらの対象は日中不在にしていることも多く、保健福祉サービスの利用を積極的に望まないといった特徴がある。しかし、中山間地域は少子高齢化・核家族化が進行しており、医療機関や医療福祉人材が不足しているため、住民 1 人ひとりが自らの健康を自己管理できることが重要であるといえる。なかでも、今後高齢者となる若年や労働者世代の健康づくりは、予防活動として意義の高い活動であると考えられる。若年者や労働者への健康づくりの介入が困難であることは全国的に報告されているが、それに対する方策として ICT（情報通信技術）を活用した健康施策が注目され、実践報告がされている。日之影町でも平成 21 年度に地域情報通信基盤整備推進交付金を活用し町内全域を結ぶ光ケーブル網を整備し、ICT を活用して地域の均衡ある発展を目指しているが、健康施策に十分活用できていない。住民のケーブルテレビの視聴状況については、7 割が「視聴をしている」と回答していることから活用可能性が大きく、学生がケーブルテレビを活用した保健活動を展開し成果を上げることができれば、その活動で用いた映像を活用してもらうことで県内中山間地域の他市町村の保健活動の一助にもなるのではないかと考えた。以上のことから、本事業では本学学生とともに中山間地域の特性を踏まえて健康に関する映像教材を制作し、ケーブルテレビ放送を活用して住民に配信し、その効果・成果を評価する。そして、映像を県内中山間地域の市町村へ配布し、住民の健康づくりに活用してもらうことを目的とする。</p> <p><b>実施内容：</b>  1. 調査協力自治体職員と打合せを行い、対象地域及び対象者を選定するために住民に対する説明会を開催する。  2. 質問紙調査票を作成する。  3. 地域特性及び現在の健康状態を評価するために質問紙を用いた健康調査及び生活実態調査を実施する。  4. 調査から得られたデータを分析し、結果をまとめ、映像コンテンツの試案を作成し、実施・評価・改善を行う。  5. 試案を基に、映像化しケーブルテレビ放送網を活用し配信する。</p>
実施状況及び結果	平成 29 年 6 月に町内の 3 地区において、質問紙を用いた生活実態調査を実施した。 （回答者：A 地区 27 名、B 地区 25 名、C 地区 31 名） 平成 29 年 11-12 月に 20-75 歳の町民全体を対象にした健康調査を実施した。 （回答者：517 名、回答率：約 39%）  平成 29 年度の事業成果として特定集団への質問紙調査を実施した結果、高血圧症や糖尿病などの健康課題があることがわかっており、塩分や飲酒量の過剰や野菜摂取量の不足、ストレスの蓄積などの生活習慣改善の必要性が明らかと

	<p>なった。これらを踏まえて映像教材の項目の選定を行っており、今後映像教材の製作やケーブルテレビでの放送実施に向けて共同研究者と調整を進めている。</p> <p><b>学生の参加状況</b>  人数： 実人数（ 10 ）人      延人数（ 10 ）人</p>
<b>評価 改善点</b>	<p>初年度である本年度は調査を主に行い、調査実施にあたって研究倫理委員会の承認に時間を要したため、調査の実施がやや遅れた。しかし、概ね予定していた調査は実施することができた。今回、調査を実施した時期が6月の農繁期（田植え）や年末の実施となり住民の協力の得られにくい状況にあった。次年度以降の調査実施の際には住民の調査への協力のしやすい時期を現地の保健師とともに検討して、実施していきたい。</p>
<b>次年度 計画</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高血圧症等の予防に向けた映像教材の開発のため、高血圧患者等への質問紙を用いた生活実態調査を実施する。</li> <li>2. 調査から得られたデータを分析し、結果をまとめ、映像教材の試案を作成し実施・評価・改善を行う。</li> <li>3. 試案を基に、映像化しケーブルテレビ放送で配信する。</li> <li>4. 調査結果をまとめ（中間）、学会発表を行う。</li> </ol>
<b>記載 責任者</b>	高橋秀治

## 1-1)-⑥

事業名	高齢者のための介護予防運動活動の支援																		
対 象	介護予防運動教室の指導員希望者																		
事業組織	宮崎県立看護大学（串間敦郎、中村千穂子、中角吉伸、原村幸代） 宮崎市福祉部介護保険課																		
事業計画	目的： 地域の高齢者を対象として開催する「健康運動教室」で、「みやざきいきいき健幸体操」の内容を含め、高齢者に対し、安全かつ効果的に運動を指導する健幸運動指導員を養成する。																		
	実施内容： 宮崎市内在住者に参加希望を募り、希望者に参加費無料で健幸運動指導員養成講座として平成 29 年 8 月 22 日・30 日・31 日、9 月 6 日の 4 日間、20 コマの講義・実技を行う。																		
実施状況及び結果	<p>受講者 31 名（内 男性 3 名） 本学の教員が担当した講義等</p> <p>8 月 30 日</p> <table border="0"> <tr> <td>講義（体操全体、転倒予防体操）</td> <td>串間</td> </tr> <tr> <td>実技（転倒予防体操）</td> <td>串間</td> </tr> <tr> <td>講義・実技（認知症及びその予防運動）</td> <td>中角</td> </tr> <tr> <td>講義・実技（骨粗鬆症、身体知）</td> <td>中角</td> </tr> <tr> <td>講義・実技（フットケア・リンパ・尿失禁）</td> <td>中角</td> </tr> </table> <p>8 月 31 日</p> <table border="0"> <tr> <td>講義（高齢者の身体特性、運動処方）</td> <td>串間</td> </tr> <tr> <td>講義・実技（ウォーキング向上）</td> <td>串間</td> </tr> <tr> <td>講義・実技（生活機能向上）</td> <td>原村</td> </tr> </table> <p>9 月 6 日</p> <table border="0"> <tr> <td>講義（解剖学：骨、関節、筋肉）</td> <td>江藤</td> </tr> </table> <p>31 名全員の方が、運動指導員の資格を取られ、29 年度後半から現指導員の補助として教室を担当し、平成 30 年度からは単独または複数で教室を担当する事になる。</p>	講義（体操全体、転倒予防体操）	串間	実技（転倒予防体操）	串間	講義・実技（認知症及びその予防運動）	中角	講義・実技（骨粗鬆症、身体知）	中角	講義・実技（フットケア・リンパ・尿失禁）	中角	講義（高齢者の身体特性、運動処方）	串間	講義・実技（ウォーキング向上）	串間	講義・実技（生活機能向上）	原村	講義（解剖学：骨、関節、筋肉）	江藤
	講義（体操全体、転倒予防体操）	串間																	
実技（転倒予防体操）	串間																		
講義・実技（認知症及びその予防運動）	中角																		
講義・実技（骨粗鬆症、身体知）	中角																		
講義・実技（フットケア・リンパ・尿失禁）	中角																		
講義（高齢者の身体特性、運動処方）	串間																		
講義・実技（ウォーキング向上）	串間																		
講義・実技（生活機能向上）	原村																		
講義（解剖学：骨、関節、筋肉）	江藤																		
	<p>学生の参加状況</p> <p>人 数： 実人数（ 0 ）人 延人数（ 0 ）人</p>																		
評価改善点	これまでの専門研修会の経験をいかし、わかりやすく、実践に即した講義等ができた。																		
次年度計画	次年度はこれまで通り、宮崎市内福祉事業所の専門職者対象の「いきいき健幸体操」専門研修会を行う予定である。																		
記載責任者	串間 敦郎																		

## 1-2)-①

事業名	看護職者のための看護力再開発講習会（看護技術演習コース）
対 象	未就業の看護職者
事業組織	宮崎県立看護大学 宮崎県看護協会ナースセンター 協働開催 宮崎県立看護大学 栗原保子、毛利聖子、勝野絵梨奈、坂井謙次、日高真美子、武田千穂
事業計画	<p>目的： 再就業を希望する未就業看護職者に対して、自己の潜在能力を高められるよう看護技術講習会を企画・実施し、再就業を支援する。本事業は、宮崎県看護協会との協働企画である。看護職能団体との連携の強化を図ることで、県内の看護の質の向上に貢献する。</p> <p>実施内容： 1) 看護力再開発講習会（看護技術演習コース）の開催 ・午前中は、講義および演習形式で行い、午後よりモジュール方式による看護方法実習書やビデオ教材等を使用して自主学習を行う。プログラム内容は別添資料に示す。 2) 講習会プログラムの検討 ・單元ごとの受講者の理解度、目標達成、満足度に関するアンケート（自由記述を含む）を実施し、今後に向けてプログラム内容の検討を行う。 3) 再就業支援（ナースセンター主催） ・受講者の経験・離職年数等を把握し、希望する就職先とのマッチングを行う。 ・講習会終了3か月及び6か月後に、就業状況調査を行う。 4) 平成29年度の報告書作成</p>
実施状況及び結果	<p>「看護力再開発講習会－看護技術演習コース」を、プログラムに即し5日間集中型で開催した。前年度と同様、單元別選択制にして、受講者の方が再就業を目指そうとする領域に必要な演習項目が選択できるように取組んだ。定員30名に対し、受講者15名（未就業者11名、就業中4名）が参加。平均年齢48歳、未就業期間（1か月から33年）平均10.3年であった。單元ごとの参加数は、○看護技術論及び移動動作の介助14名、○誤嚥性肺炎を予防するための口腔ケア・吸引12名、○検査と看護11名、○感染予防の実際12名、○与薬と看護10名、○急変時の看護14名であった。午後に開講した自主学習への参加は、全日程10名程度であった。</p> <p>受講終了後の演習についての理解度、目標達成、満足度に関する調査（4段階尺度評価、自由記述）において、どの單元においてもわかりやすかった、（平均3.8以上）、実践に役立つ内容だった（平均3.8以上）と肯定的評価であり、満足度が高いことがわかった。自主学習では、採血、静脈内注射皮下・筋肉内注射、聴診の技術（フィジカルアセスメントに関連する内容）などの技術修得に繰り返し取り組んでおり、演習後には知識面・技術面に対する自信が向上する結果となった。また、本プログラムの構成は、単なる看護技術の手順の見直しということではなく、対象を捉えた看護技術修得という位置づけで構成している。そのため、事例を活用し「看護技術力とは」の再確認から開始し、原理原則に則した講義展開、根拠に基づく実践の重要性を重視している。自由記述内容の評価分析においては、根拠に基づく看護実践の意味に気づく、看護（看護観）に対する再認識、等の気づきをしていた。再就業に向けた専門職者としての姿勢を再構築できたと考える。さらに、演習支援体制における、グループワークの導入、1グループ1教員配置は、個別丁寧な技術支援に繋がっていた。</p> <p>受講3か月後の就業状況調査（平成29年12月末）では、未就業者11名（回収率100%）中、5名が再就業しており、46%の達成率である。再就業先としては、診療所2名、保育園1名、健診事業所2名である。</p> <p>看護力再開発講習会は、講義コース、本コースの後に、これらのコースで得た専門知識</p>

	<p>や技術をより深めるために、実習講習（宮崎県看護協会ナースセンター主催）という実地訓練の場も開催している。さらに、平成 27 年度よりは宮崎県の特性に配慮し地区別（県北、県南・県西等）看護力再開発講習会の開催、復職支援交流会の実施、等、宮崎県看護協会ナースセンターが主導となって活動の幅を広げ取り組んでいる。協働という形式で、主に看護技術修得への支援を強化するという目的で平成 16 年度より取り組んできた本事業の総括としては、一定の成果を上げたという評価できることから、平成 29 年度をもって終了することとした。</p> <p>今後も大学が貢献できる看護職者への就業支援を行っていくために、平成 30 年度より、新規プロジェクトを立ち上げ、活動を推進していく予定である。</p> <p>平成 29 年度看護力再開発事業報告書を作成した。</p>
	<p><b>学生の参加状況</b>  活動内容：演習準備への支援  人数： 実人数（ 3 ）人 延人数（ 0 ）人</p>
<p><b>評価 改善点</b></p>	<p>評価：  事業結果より、再就業を希望しながらも不安を抱えて就業に踏み切れない看護職者の就業支援として本事業を継続して行うことは意義があった。単元毎の選択制導入、個別指導を充実した演習支援体制は、受講生にとっては自由度があり好評であった。</p> <p>改善点：  平成 16 年度より協働という形式で、主に看護技術修得への支援を強化する目的で取り組んできた本事業は、一定の成果を上げたという評価をもとに、平成 29 年度をもって終了することとした。尚、宮崎県看護協会ナースセンターが主催する看護力再開発講習会の講師・演習支援は継続する予定である。</p> <p>今後も大学が貢献できる看護職者への就業支援を行っていくために、平成 30 年度より、新規プロジェクト（看護職者の為の再就職支援事業～キャリアアップ支援と看護技術演習～）を立ち上げ、活動を推進していく予定である。</p>
<p><b>次年度 計画</b></p>	<p>○宮崎県看護協会ナースセンターが主催する看護力再開発講習会の講師・演習支援の継続。</p> <p>○看護職者への就業支援を行う目的で、平成 30 年度の新規プロジェクトとして、看護職者の為の再就職支援事業～キャリアアップ支援と看護技術演習～を実施する。</p>
<p><b>記載 責任者</b></p>	<p>栗原保子</p>

# 平成 29 年度 看護職者ための看護力再開発講習会

## — 看護技術演習コース —

【宮崎県立看護大学・宮崎県看護協会協働事業】（敬称略）

日時/会場	9:00	12:00	13:00	15:30
<b>9月4日</b> <b>(月)</b> 宮崎県立看護大学 臨床実習室Ⅰ 定員 30名	<b>ガイダンス</b>	<b>○看護技術力を高めるとは</b> <b>宮崎県立看護大学</b> <b>教員 栗原 保子</b> <b>○移動の動作の援助</b> 看護の対象者、看護者双方の安全、安楽を守るために必要なボディメカニクスを確認し、移動動作の援助を中心とした基本技術を修得する。 <b>宮崎県立看護大学</b> <b>教員 坂井謙次</b> <b>支援者(蔵元、日高、四反田)</b>	<b>休憩</b>	<b>○誤嚥性肺炎を予防するための口腔ケアと吸引</b> 「口腔ケア」が発熱や肺炎の予防とといった全身の健康維持にも関連することを理解し、口腔ケアの方法、吸引の手技について修得する。 <b>宮崎県立看護大学</b> <b>教員 原村幸代</b> <b>支援者(四反田、武田)</b>
<b>9月5日</b> <b>(火)</b> 宮崎県立看護大学 臨床実習室Ⅰ 定員 30名	<b>●検査と看護(採血法)</b> 診断・治療過程における検査の意義と看護の役割を再認識する。本単元では、「採血」技術を修得する。 <b>県立宮崎病院 中原由美子</b> <b>支援者(尾井、原村、日高)</b>	<b>休憩</b>	<b>自主学习</b> モジュール実習書、ビデオ教材、モデル人形等を用いて各自の目的に応じて演習を行う <b>支援者(伊尾喜、尾井、河野(義))</b>	
<b>9月6日</b> <b>(水)</b> 宮崎県立看護大学 臨床実習室Ⅰ 定員 30名	<b>●感染予防策の実際(感染防御)</b> 感染の知識を深め、正しい感染予防の実際を学ぶ。本単元では、「手洗い」等、感染予防に必要な基本技術を修得する。 <b>宮崎市郡医師会病院</b> <b>感染管理認定看護師 篠原真理子</b> <b>支援者(武田、河野(朋))</b>	<b>休憩</b>	<b>自主学习</b> モジュール実習書、ビデオ教材、モデル人形等を用いて各自の目的に応じて演習を行う。 <b>支援者(溝口、武田)</b>	
<b>9月7日</b> <b>(木)</b> 宮崎県立看護大学 臨床実習室Ⅰ 定員 30名	<b>○与薬と看護(注射法)</b> 治療に伴う看護技術のうち、身体に直接影響を及ぼす与薬について理解を深める。本単元では、「注射」技術を修得する。 <b>宮崎県立看護大学</b> <b>教員 中角吉伸</b> <b>支援者(丸田、宮田、坂元)</b>	<b>休憩</b>	<b>自主学习</b> モジュール実習書、ビデオ教材、モデル人形等を用いて各自の目的に応じて演習を行う。 <b>支援者(丸田、宮田、坂元)</b>	
<b>9月8日</b> <b>(金)</b> 宮崎県立看護大学 臨床実習室Ⅰ・Ⅱ 定員 30名	<b>●急変時の看護</b> <b>(急変時のフィジカルアセスメント・救急蘇生)</b> 身体機能面から見た急変時フィジカルアセスメントのとらえ方としてエビデンスに基づいた呼吸器・循環器の理解と対処の仕方を学び、最新のガイドラインに基づく心肺蘇生の基本を修得する。 <b>救急看護認定看護師 学外講師予定</b> <b>支援者(河野(義)、古川、中角)</b>	<b>休憩</b>	<b>自主学习</b> モジュール実習書、ビデオ教材、モデル人形等を用いて各自の目的に応じて演習を行う。 <b>支援者(中角、古川)</b>	

## 1-2-②

事業名	宮崎県内看護職者のメンタルヘルスセルフマネジメント力育成事業
対 象	宮崎県内看護職者
事業組織	川村道子 (宮崎県立看護大学 准教授) 上田智之 (宮崎県立看護大学 講師) 河野義貴 (宮崎県立看護大学 助教) 福浦善友 (久留米大学医学部看護学科 講師) 医療機関健康管理担当者・看護部研修担当者
事業計画	<p>目的：</p> <p>看護職は健康に関する専門知識を有する職種であるがゆえに、一般的に行われている how to を示す類のメンタルヘルス研修とは違った、専門知識を駆使して目には見えない自己のメンタルを客観的に捉えることができるような研修により、メンタルヘルスのセルフマネジメント力を向上させることが可能である。そこで、研修プログラムの検討を進めながら、宮崎県内看護職者のメンタルヘルスセルフマネジメント力の向上を図り、セルフマネジメントに利用できる研修プログラムやリーフレットを作成。それを県内医療機関に配布し、メンタルヘルス対策に活用してもらうことを目指す。</p> <p>実施内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 28年度に実施した研修会の成果について回収したアンケートの分析</li> <li>② 平成29年3月「社会精神医学会」での発表で頂いた意見を反映しながらプログラムを再検討</li> <li>③ 県内看護師からの研修会開催の要望があれば継続開催</li> <li>④ メンタルヘルス関連の学会あるいは研修会等で発表し外部機関と意見交換</li> <li>⑤ ④を踏まえて最終的に県内の看護職者のメンタルヘルスセルフマネジメントに利用できるリーフレットを作成、県内医療機関への配布</li> </ol>
実施状況及び結果	<ol style="list-style-type: none"> <li>① メンタルヘルス対策とそのエビデンスを示したプログラムに加え、患者にとっての行為の意味を一つ一つ自覚できるようバイオロジカルの視点で根拠を示し、メンタルヘルス向上につながる内容を追加して作成した。修正版プログラムに沿って実施する最終研修会に参加した看護師に対して、プログラムの効果を判断するための4つの設問への回答と研修会の感想を自由記載で求めた。設問は単純集計を行い自由記載は質的帰納的に分析した。最終研修会に72名が参加し、アンケート回収率は75%であった。4つの設問への回答はどれも「参考になった」が90%を超えていた。自由記載の内容を質的帰納的にし整理したところ、仕事のやりがいをも再認識するもの、自身のメンタルヘルスを考えた生活改善の必要性を自覚するもの等3つのカテゴリーが生成された。脳科学の視点を根拠に示しながらプログラムされたメンタルヘルス研修は、看護師が「やりたい仕事が出来ていない」と自責の念を抱くことを妨げ、やりがいをもって仕事を続けることに資することが示唆された。また、看護職者が心の健康を保ちながら仕事を継続することに繋がり、離職率の改善にも貢献できると考えられた。</li> <li>② 平成29年3月「社会精神医学会」で①の内容を発表した。フロアからの感想として、看護職者の勤務実態を反映したプログラムであり、プログラムの全貌を知りたいという意見を頂いた。また、プログラム作成の際に参考にした文献や著書の紹介を求められたことから、ほぼ修正を進めてきた最終プログラムを完成版として今後活用できると判断した。</li> <li>③ 平成30年2月10日に宮崎県看護連盟からの要請で「若手看護師の為のメンタルヘルスセルフマネジメント」の研修会を開催した。参加者30名であった。本事業としては、平成29年度で終了するが、平成30年度には、宮崎県病院・病院局の新人教育研修の中で本事業で作成した「看護師の為のメンタルヘルスセルフマネジメント」の研修を行うこととなった。さらに、宮崎県看護協会の職能委員会主催の研修会で「看護師長のため</li> </ol>

	<p>のメンタルヘルスセルフマネジメント」を行う予定である。</p> <p>④ 宮崎県看護連盟での研修会に先立ち、若手看護師のメンタルヘルスの状況などの情報交換を行った。プリセプター制度などの導入により、1人1人の新人看護師に対して個人の状況に合わせたサポート体制が整ってきてはいるが、サポートする側のメンタルヘルスサポートも必要であることが把握できた。今後の課題としたい。</p> <p>⑤ 看護職者のメンタルヘルスセルフマネジメントに利用できるリーフレットを作成し、3月末に県内医療機関へ配布した。</p> <p>学生の参加状況：実績なし</p>
<p>評価 改善点</p>	<p>評価：</p> <p>平成28年度から複数回の研修会を行い、参加者のアンケートからのフィードバックを反映させて改善してきたプログラムは、看護職者が心の健康を保ちながら仕事を継続することに繋がるのが、最終研修会参加者のアンケート分析から明らかになった。本プログラムは離職率の改善にも貢献できるものと期待できると評価した。</p>
<p>記載 責任者</p>	<p>川村道子</p>

## 1-2)-③

事業名	障がいを持つ子どもの療育に携わる看護職者の看護実践力向上のための支援事業
対 象	障がいを持つ子どもの療育に携わる宮崎県立こども療育センターの看護師・保育士
事業組織	三宅 玉恵 (宮崎県立看護大学 教授) 甲斐 鈴恵 (宮崎県立看護大学 講師) 丸田 梨矢子 (宮崎県立看護大学 助教) 吉田 幸代 (宮崎県立看護大学 助教) 宮崎県立こども療育センターの研修担当看護職者
事業計画	<p><b>目的：</b> 障がいを持つ子どもに携わる医療型障害児入所施設の看護師・保育士の実践力の向上をはかり、子どもの健康を守り、質の高い看護が提供できるよう支援していく。またその成果を県内の療育に携わる看護師、保育士、養護教諭に還元させ、宮崎県の療育における看護の質の向上に寄与する。</p> <p><b>実施内容：</b></p> <p>1. 医療型障害児入所施設における研修支援</p> <p>1) ナイチンゲール看護論による対象特性の捉え方の学習会の実施 (年に1回実施)</p> <p>2) 家族看護理論を活用した子どもと家族の捉え方についての学習会の実施 (年に1回実施)</p> <p>3) ナイチンゲール看護論を用いた事例検討会の実施 (7~8回/年実施 実施日は実施の1か月ほど前に研修担当の看護職者の勤務に合わせて決定)</p> <p>2. 県内の療育に携わる看護師・保育士・養護教諭を対象に講演会の企画</p>
実施状況及び結果	<p>1.</p> <p>1) 4月に転任者とその他の看護師を対象に、「子どもの発達と療育」、「ナイチンゲール看護論を用いた対象特性の捉え方」についての学習会を実施し、本学の三宅教授による講義を行った。転任者5名と看護師9名計14名ずつの参加があった。参加者の満足度は4段階尺度で、満足・やや満足と答えた参加者が両学習会とも100%であった。「小児の発達と発育」の学習会に参加した看護師からは、「療育について基礎から身に着けたい」「子どもの成長のために母子の愛着形成が関わっているということがわかった」との意見が聞かれた。また、「ナイチンゲール看護論を用いた対象特性の捉え方」では、「実際の事例を通してどのように立体像を考えていくのか、説明がわかりやすく、理解できた」「子どものもてる力・生きる力を引き出せる関わりに活かしていきたい」との意見があった。</p> <p>2) 9月に、家族看護についての学習会を行い、本学の三宅教授による講義を行った。参加者は転任者5名を含む、16名の参加があった。満足度は満足・やや満足と答えた参加者が100%であった。参加者からは、「子どもだけでなく、家族へ目を向けることの大切さがわかった」、「家族の発達段階を捉えることの重要性が理解できた」「家族（特に母）の思いを十分に理解することが大切」「相手の立場に立つことから看護が始まる」等の意見が聞かれた。また今年度は保育士の参加も4名あった。</p> <p>3) 今年度は6月、9月、11月、2月の計4回、事例検討会を実施した。参加者は看護師だけでなく、施設で子どもたちに関わる保育士の参加もあった。参加人数は毎回20名前後であった。提出された事例の発達段階は学童期～思春期の時期であり、検討の内容は、反応が乏しい子どもに対する必要な関わりや、重症心身障害児に対する快の刺激の多い関わり、遺伝性の進行性難病を患う子どもの今後を見据えた看護などであった。検討会後には「検討を通して子どもが発している多くのサインに気づき、周りの環境が大</p>

	<p>切であると感じた。そのために、子どもの体調を整えながら、家族を支え、豊かな表情を引き出すように働きかけることが必要であり、刺激を取り入れていくことが大切なことと見えてきた」「様々な情報を看護職が持っていることがわかったので、情報を記録に残して共有をしていきたい」、「検討を通して、今の関わりを続けていけばいいのではないかと思えた」との意見が聞かれ、日々の関わりを振り返る機会となっていた。</p> <p>2. 12月には障害の有無に限らず、子どもと家族のよりよい健康をめざした「食」について考えることを目的に、「いただきます みそをつくる子どもたち」の上映会を行った。内容は本や映画になった「はなちゃんのみそ汁」の安武はなさんが卒園された福岡市高取保育園での、子どもたちの姿をおったドキュメンタリー映画であった。医療関係者・保育士・心理士などの専門職者や養育者、学生など約115名の参加があった。参加された専門職者からは、「先人の知恵を大切に引継ぎ、継続して取り組んでいるところがあることを知ることができ、大変感銘を受けた」、「子どもたちが生き生きとしている様子がとても印象的だった。食べることは生きることということを日常の中で学ぶことができ、良い環境で育まれていると思った」「食の大切さ考え、食事を見直そうと思った。日本がもともと持っていたよき伝統を見直していきたい」との意見を頂いた。また子育てをしている母親からは、「子連れでも参加しやすい雰囲気、無料の上映会。とても嬉しかった。また参加したい」、「小さい子どもがいるので、映画を観る機会がない。ゆっくり一緒に観れてよかった」などたくさんの感想を得た。</p> <p><b>学生の参加状況</b>  人数： 実人数（ 8 ）人 延人数（ 8 ）人</p>
<p><b>評価 改善点</b></p>	<p>4月と9月に行った学習会のアンケートでは、参加者の満足度と理解度において、4段階尺度で、満足・やや満足と答えた参加者が両学習会とも100%であり、満足度の高い学習会であったといえる。転任者においては、「一般病棟での経験しかなく、子どもたちとの関わりに不安があったが、生活を整える子どもとの関わりが「本来の看護」と講師（三宅教授）から聞き、心強かった」との意見があった。</p> <p>事例検討会では、事例の提出に向けて病棟内でカンファレンスを重ねることによって、看護師間の情報共有やそれぞれの考えや子どもたちの捉え方が広がることも大きな価値であるという意見があった。今年度はこれまでの全体で検討をしていた方法から、少人数のグループに分かれて検討をし、最後に共有するよう進め方が変更された。これは、より活発なグループワークとなるように、施設の研修担当の方たちが主体的に工夫をした取り組みであった。そのことによって病棟や職種を越えて、情報を共有し、意見交換することが活性化され、多くの意見が出るようになっている。さらに事例検討会後は報告書が作成され、そこで検討内容や検討会を振り返り、まとめる機会となっていた。事例検討会には本学の教員も参加しているため、教員の助言によってさらに自信を持って日々の関わりに活かしていけるとの意見もあった。事例検討会については、施設の要望に応じて実施日や回数を調整できるように検討していく。</p>
<p><b>次年度 計画</b></p>	<p>1) 宮崎県立こども療育センターにおける研修支援  ①前年度の取組みの評価により、改善したプログラムで実施する。  ②各年ナイチンゲール看護論による対象特性の捉え方の学習会の実施・評価  ③家族看護理論を活用した子どもと家族の捉え方についての学習会の実施・評価  ④ナイチンゲール看護論を用いた事例検討会の実施・評価</p> <p>2) 県内の療育に携わる看護師・保育士・養護教諭を対象に講演会の企画・実施・評価</p>
<p><b>記載 責任者</b></p>	<p>吉田 幸代</p>

## 1-2)-④

事業名	感染管理認定看護師フォローアップ研修事業
対 象	感染管理認定看護師（以下、CNIC）
事業組織	宮崎県立看護大学：邊木園幸、栗原保子、武田千穂、勝野絵梨奈
事業計画	<p><b>目的：</b> 感染管理認定看護師教育課程修了後の資格取得に向けた継続的な学習支援と、資格認定更新に向けた自己研鑽のためのフォローアップ研修を実施し、さらなる実践能力を高めることを目的とする。</p> <p><b>実施内容：</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 感染管理認定看護師フォローアップ研修【実施要領】に基づき実施。</li> <li>2. フォローアップ支援体制整備及び支援者育成のための研修支援と成果共有（発表・報告）。</li> <li>3. 感染管理認定看護師の活動実績が研究につながるよう支援。</li> </ol> <p><b>【実施計画】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 平成 28 年度修了生を対象とした認定審査模試の実施 実施日：平成 29 年 4 月 29 日（土）</li> <li>2. CNIC を対象とした講演会及び実践報告会の開催 第 1 回 平成 29 年 7 月 29 日（土） 第 2 回 平成 30 年 1 月～2 月</li> <li>3. 先駆的研修への CNIC 派遣</li> <li>4. 研修受講者へ受講証明書を発行する (CNIC は認定更新時の自己研鑽ポイントとして申請可能)</li> <li>5. 2. の実践報告で発表されたものの中で優れた演題については、学会発表につながるように支援する。</li> <li>6. 2. の実践報告された演題は報告書としてまとめ、所属医療施設へ送付する。</li> </ol>
実施状況及び結果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 平成 28 年度修了生を対象とした認定審査模試を平成 29 年 4 月 29 日（土）に実施し、修了生 10 名が受けた。 5 月 18 日の認定審査試験の結果、修了生 11 名のうち 9 名が認定審査に合格した。</li> <li>2. CNIC を対象とした講演会及び実践報告会を開催した。 第 1 回 平成 29 年 7 月 29 日（土）10 時～15 時 30 分 <u>参加者数 33 人</u>  <ul style="list-style-type: none"> <li>● 実践報告 3 例</li> <li>● 教育講演「JANIS システムと今後の展望」 国立感染症研究所 薬剤耐性研究センター 筒井敦子 先生</li> </ul> 第 2 回 平成 30 年 1 月 28 日（日）9 時～16 時 30 分 <u>参加者数 35 人</u>  <ul style="list-style-type: none"> <li>● 実践報告 9 例</li> <li>● 教育講演「AMR 対策において感染管理認定看護師に求められる役割」 奈良医科大学感染症センター 准教授 笠原敬 先生</li> <li>● HAICS 研修会報告 感染管理認定看護師 児玉崇氏</li> </ul> </li> <li>3. 先駆的研修への CNIC 派遣 HAICS (Healthcare Associated Infection Control Support) 研究会が主催する感染管理認定看護師を対象としたキャリアディベロップメント講座（4 日間）に感染管理認定看護師教育課程修了生 1 名を派遣した。研修内容については、フォローアップ研修会で報告してもらい、県内の CNIC と情報を共有した。</li> </ol>

	<p>4. 研修を終日受講した第1回30人、第2回31人に受講証明書を発行した。</p> <p>5. 2.の実践報告で発表されたものの中で優れた1演題について、学会発表を打診したところ前向きな回答があり、平成30年度中の発表を目標としている。</p> <p>6. 2.の実践報告された抄録を報告書としてまとめ、3月末に参加者の所属医療機関へ送付した。</p> <p><b>学生の参加状況</b>  人数： 実人数（ 0 ）人      延人数（ 0 ）人</p>
<p><b>評価 改善点</b></p>	<p>平成30年度の診療報酬改定を見据えた教育講演を企画・実施でき、参加者の満足度が高かった。2回とも実践報告を行ったことで、参加者は所属施設の現状を見直す機会としていた。また、今年度はHAICS研修にCNICを派遣し、その内容を共有できたことは、CNICにとって自己研鑽の刺激になったと思われる。HAICS研修の参加費が高額で、所属施設の支援がない場合はCNICの経済的負担も大きい。その一方で、内容は最新知見を学べる充実したプログラムと講師陣であることから、伝達研修によって県内CNICと情報共有できることは活動の糧になると思われる。平成29年度より教育課程は休講していることから、フォローアップ研修は終了とする。</p>
<p><b>次年度 計画</b></p>	<p>なし</p>
<p><b>記載 責任者</b></p>	<p>邊木園 幸</p>

## 1-2)-⑤

事業名	現任看護職者のキャリアアップをはかる事業 県内の助産師のネットワーク作りとキャリアアップをはかる事業
対象	県内で就業している助産師
事業組織	宮崎県立看護大学：橋口奈穂美 一般社団法人宮崎県助産師会：森伴子、田中優子、水畑喜代子
事業計画	<p>目的：</p> <p>助産師活動の連携や相互の浸透を図る助産師のネットワーク作りと、助産師活動をさらに活性化することを目的として研修会を開催する。宮崎県助産師会と協働で企画運営し、県内助産師の助産活動の質の向上に貢献する。</p> <p>実施内容：</p> <p>1. プログラム(研修会の開催)</p> <p>第1回：5月28日(日)13:00～16:10 「医療安全研修 助産記録 - 助産ケアのプロセスを表す記録とは -」 公益社団法人日本助産師会 理事 葛西圭子先生</p> <p>第2回：8月20日(日)10:00～13:10 「食からの女性の健康支援」 宮崎県立看護大学 菅野幸子先生</p> <p>○両研修会とも小グループを編成し、検討や実習を行い情報交換の場になるよう組織メンバーが役割を担う。</p> <p>2. 広報 一般社団法人宮崎県助産師会会員へは会から、非会員へは宮崎県立看護大学助産師の仕事研究会を通して助産師が勤務している施設に郵送にて周知していく。</p> <p>3. プログラム評価 研修会毎に、アンケート調査し、プログラムの評価を行う。</p> <p>4. 開催場所 宮崎県立看護大学 臨床看護実習室3 多目的ホール(第1回) 中講義室3 栄養学実習室(第2回)</p>
実施状況及び結果	<p>事業計画通りに研修会を2回実施した。第1回目の医療安全研修には32名の参加。第2回の食からの女性の健康支援には23名の参加があった。2回の研修会とも、参加者の年齢は20代～60代とすべての世代の参加と、医療施設・地域で活動する助産師の両面からの参加があった。様々な年齢と他施設の看護職者が含まれるグループを作成し事例検討や実習が行えるようにしている。研修会後のアンケート結果から「他施設の方の意見や、話が聴けて良かった」「さまざまな意見を聞けてよかった」「実習があることは学びを深める」「お母さんたちの指導に取り入れていこう」など、意見がきかれた。</p> <p>学生の参加状況 人 数： 実人数（ 0 ）人 延人数（ 0 ）人</p>
評価改善点	アンケート結果から96%以上が今後の活動に参考になると答えている。またアンケートの自由記載（結果の欄参照）からも、事業の目的を果たした研修会と評価する。
次年度計画	参加者が定着していることから、生涯学習の機会となっており、継続事業としたい。
記載責任者	橋口奈穂美

## 1-3)-①

事業名	むし歯予防対策評価事業
対象	調査協力自治体において20歳になる者
事業組織	宮崎県立看護大学（高橋秀治、中尾裕之） 宮崎県健康増進課（森木大輔、佐竹あすか） 宮崎県歯科医師会 協力自治体（川南町、美郷町、宮崎市）
事業計画	<p>目的：</p> <p>成人期の歯科健診を実施し、フッ化物洗口の実施の有無とむし歯の発生状況、生活習慣との関連等を評価し、そのデータを県内関係者への説明会や研修会などに活用する。また、調査結果を基に県内全市町村での普及・啓発を図ることで、フッ化物洗口事業をさらに推進し、県内の歯科保健の向上に貢献することを目的とする。</p> <p>実施内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 調査研究対象地域を選定するために市町村・小中学校等に広報して説明会を開催する。</li> <li>2) 調査研究の協力依頼文を送付する。また、歯科健診問診票及び生活習慣に関する調査票を作成する。</li> <li>3) 歯科健診を実施する。</li> <li>4) 歯科健診結果で得られたデータを分析し、結果をまとめる（最終）。</li> </ol>
実施状況及び結果	<p>平成30年1月3日、1月7日に歯科健康診査及び生活習慣に関する質問紙調査を実施。</p> <p>1月3日（水・祝）8：00-10：30 川南町45名 8：30-12：00 美郷町39名</p> <p>1月7日（日）8：30-10：30 宮崎市（本郷地区）40名 8：30-14：00 宮崎市（佐土原地区）28名</p> <p>学生の参加状況 人数：実人数（17）人 延人数（17）人</p>
評価改善点	昨年度の評価を活かして健診会場を成人式式典会場と同じ会場が使えるように調整を図り、同会場内での実施ができた。健診会場も昨年よりも1か所増やして対応し、健診受診者の増加を図った。しかし、予定した人数よりも少なかったため、更なる受診者の増加を図るための方策が必要であったと考える。
次年度計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 調査結果の概要及びフッ素洗口によるむし歯予防の効果に関する啓発用リーフレットを作成し、説明会や研修会等で活用する。</li> <li>2) 各保健所の地域歯科保健推進協議会等において調査結果を報告する。</li> <li>3) 県内市町村・医療機関・小中学校関係者等へのフッ素洗口事業の効果について説明会を実施する。</li> <li>4) 健康増進課が企画する講師を招聘した県内専門職へフッ化物洗口事業実施に係る研修会開催を支援する。</li> <li>5) フッ化物洗口事業報告書作成および学会発表を行う。</li> </ol>
記載責任者	高橋秀治

## 1-3)-②

事業名	ひむかヘルスリサーチセミナー～ひむかヘルスクラウド～事業
対 象	看護職者
事業組織	宮崎県立看護大学教員（江藤敏治、中尾裕之、松本恵子） 宮崎大学教育文化学部（藤井良宜教授、根岸裕孝准教授） 名古屋大学大学院医学系研究科（青石恵子准教授） 宮崎県福祉保健部（日高良雄次長） ひむかヘルスリサーチセミナー事務局（柏田ひろみ、吉元寿林）
事業計画	<p><b>目的：</b>  これからの高齢社会を見据え、地域医療・保健・健康増進活動をどのように展開していくか極めて重要である。根拠に基づく保健医療サービスの展開や健康政策の決定のためには、地域の特性を把握するための疫学統計は必要不可欠な知識となっている。そして、そのデータに基づいた地域住民の健康増進と地域の活性化のための政策と、その政策を確実に実効性を持って地域住民に受け入れられることこそが、限られた資源を有効に活用できる方法である。本事業の目的は、本学卒業生、宮崎県の地域ならびに企業保健師の日常健康増進活動における研究着眼力の養成と健康増進政策確立力の養成、さらに市民の健康行動を促すことのできる保健指導力の向上にある。</p> <p>本事業のもう一つの目的に、本セミナーの研究支援事業を通して宮崎県から地域医療保健のエビデンスを発信すること、地域特性を把握し、地域自治体をはじめとした医療保険行政機関との共同研究事業を展開すること、セミナー参加者から本大学大学院進学する受講生を育てることにある。</p> <p><b>実施内容：</b>  毎月、保健指導・統計に関するスキルアップセミナーを開催する。また遠隔地に対する出張セミナーを開催する。更に「ひむかヘルクラウド」を立ち上げ、遠隔地でのセミナー視聴やセミナー後のアンケート結果の即時フィードバックに活用するなど、「セミナーに参加しやすい環境」作りを目指す。</p> <p>具体的なクラウド内容として、Googleの有料クラウドサービスであるG Suiteを利用して、宮崎県内の保健医療行政の担当者向けにウェブ上の情報スペース「ひむかヘルクラウド」を整備する。</p>
実施状況及び結果	<p>本セミナーを通して得られた知見は平成29年8月6日、大分で開催された日本地域看護学会第20回学術集会に於いて【地域看護職者と大学を結ぶ疫学・保健指導セミナー「ひむかヘルスリサーチセミナー」①統報～統計指導編、②統報～保健指導編 魅力的な保健指導を内観から紐解く】と題してワークショップを2題主催し、全国の保健師、大学教員から142名のご参加を頂き、多くの学びを共有することが出来た。</p> <p>更に3年間のまとめとして今年度はじめて一般市民向けに「健幸への道しるべ」と題した公開講座を開催した。「健幸に導く上手な医師のかかり方」の講演に始まり、「3年間のひむかヘルスリサーチセミナーから導かれる健幸への道しるべ」 a)健診データから b)妊婦さんから c)歯科データから d)中学生の心から e)幸せのシャンパンタワーとひむかヘルスリサーチセミナーの題目でシンポジウムを開催した。その模様は宮崎日日新聞でも取り上げられ、本事業は、本県の看護、保健、医療事業に極めて貢献していると考えられた。</p> <p>また、クラウドコンテンツとして次に示す項目を整備し利用方法の案内と試用を行った。</p> <p>①e-learning  ひむかヘルスリサーチセミナーで使用したプレゼンテーションやセミナーの様子をおさめた動画を整備。今年度は全ての講座の動画をデジタルコンテンツとして作成した。</p>

②ビデオ会議スペース

PC・タブレット端末・スマートフォンからアクセスできるウェブ上の会議スペース。ライブチャット・画面の共有・映像を使って、自治体の担当者間のコミュニケーション・打ち合わせ、大学の研究者へのコンサルテーション等に活用する。

③インターネット調査システム

県内市町村担当者への情報収集や住民への調査等をウェブを使って行うことができるシステム。

④ファイルの共有

メールでは送ることが難しい大きなサイズのファイルを送付したり、複数の人とファイルをやり取りしたりするためのスペース。

<平成 29 年度 実施セミナー一覧>

日 程	内 容	担 当	参加人数
5/24 (水)	「成功するハイリスクグループに対する個別指導のポイントと㊟テクニック」	江藤敏治 教授 (宮崎県立看護大学)	25 名
6/21 (水)	「地域の特徴を視覚化する GIS～地図分析について優しく解説」	中尾裕之 教授 (宮崎県立看護大学)	20 名
7/26 (水)	「地域診断から母子の地域包括的支援を考える～A市の既存データをもとに～」	松本憲子 准教授 (宮崎県立看護大学)	20 名
8/5 (土)	平成 29 年度 日本地域看護学会 ワークショップ (大分)	ひむかヘルスリサーチ セミナー 講師陣	142 名
8/21 (月)	高千穂 出張セミナー	ひむかヘルスリサーチ セミナー 講師陣	19 名
9/27 (水)	「成功するポピュレーションストラテジーとしての 集団指導のポイントと㊟テクニック」	江藤敏治 教授 (宮崎県立看護大学)	18 名
10/25 (水)	「インターネットセミナー配信ネット会議/ヘルス クラウドの使い方」	中尾裕之 教授 (宮崎県立看護大学)	20 名
10/6 (金)	特別セミナー「統計分析フリーソフトウェア“R”と その使い方」	竹内昌平 先生 (長崎県立大学)	19 名
11/29 (水)	“統計学—その基本的な考え方”の著書藤井良宣教 授による「わかりやすい統計の話」	藤井良宣 教授 (宮崎大学)	18 名
12/1 (金)	串間市 出張セミナー	ひむかヘルスリサーチ セミナー 講師陣	19 名
1/24 (水)	「データ解析・データマイニングを用いたテキスト 分析を使いこなす」	中尾裕之 教授 (宮崎県立看護大学)	17 名
2/28 (水)	「成功する年度計画実績の読み方のポイントと次年 度計画立案の㊟テクニック」	江藤敏治 教授 (宮崎県立看護大学)	17 名
3/14 (水)	ひむかヘルスリサーチセミナー 市民公開講座「健幸への道しるべ」	ひむかヘルスリサーチ セミナー 講師陣	27 名

学生の参加状況

人 数： 実人数 ( 15 ) 人 延人数 ( 30 ) 人

評価  
改善点

本年度は従来のセミナー構成を変更し、「1回のセミナーで1つのテーマ」を集中的に取り扱った。保健指導セミナー2回、統計セミナー4回、地域診断政策立案セミナー2回、出張セミナー(高千穂・串間)2回、特別セミナー1回、市民公開講座1回と、受講者人数は381名であった。

	<p>平成 27～29 年度の事業を通し、日南市とのデータヘルス計画の推進、協会けんぽ宮崎との高血圧管理を中心としたデータヘルス計画および宮崎県保険者協議会による宮崎県の KDB データを活用した健康づくり支援事業との連携が始まりつつある。メガデータの解析に基づいた健康政策の立案ならびに現場での効果的な保健指導を展開できる状態になりつつある。</p>
次年度計画	<p>これまでの定期セミナーを継続して開催するとともに、昨年度新規に進めてきた宮崎県内の保健医療行政の担当者向けにウェブ上の情報スペース「ひむかヘルスクラウド」を整備し、インターネット会議システムを有効に活用し、他の研究機関や看護現場との連携を図っていく。</p> <p>次年度計画として、宮崎県国保連合会ならびに宮崎県との共同事業を通し、過去 5 年間の宮崎県 KDB データを解析する。また、出張セミナーを通して協定を結ぶことになった串間市との連携事業における住民データ解析などを通して詳細な地域診断を行うとともに、適切かつ効果的な健康政策を立案し、現場に提供していく。次年度以降はその検証作業も行い、PDCA サイクルを運用していく。</p> <p>本セミナーの目的は、地域保健師の疫学や統計の力を養成し、地域診断や適切な健康政策の立案と市民の健康行動を促すことのできる保健指導力の向上にある。そのためには、セミナーに参加するだけでなく、継続的に学び、それを活用する力が必要である。セミナーにおいて知識や技能を身に付けてもらうだけでなく、保健師が苦手としている疫学や統計に対する意欲や学習態度を高め最終的に本学大学院での学びに繋げていくことも目指す。</p>
記載責任者	江藤敏治

## 1-3)-③

事業名	新人から中堅助産師のスキルアップ研修事業
対 象	新人から中堅助産師
事業組織	宮崎県立看護大学 別科助産専攻 (濱寄真由美、佐藤邦子、高橋愛美、蚊口理恵) はまだレディスクリニック(濱田政雄) 宮崎県医療薬務課(松尾祐子) 宮崎県立延岡病院・看護協会助産師職能(緒方清子) 宮崎県立日南病院(橘菌和子)
事業計画	<p>目的：</p> <p>① 妊婦・産婦・褥婦・新生児に対して良質で安全なケアを提供できる。 ② 助産師学生に統一したケア・指導が提供できる。 ③ 助産外来・院内助産の開設に向けての動機づけとなる。 ④ 助産師基礎教育からの継続教育を行い、臨床助産能力を高め、産科病棟に勤務するための助産師の人材育成を図る。 ⑤ 新人助産師に必要な基礎知識・技術を学び、アセスメント力を高める。 ⑥ 新人助産師同士の交流を図り、病棟での困難感の情報交換を行うことにより離職予防に努める。</p> <p>実施内容：</p> <p>1) 新人から中堅助産師のスキルアップ研修会の開催</p> <p>① 堤尚子院長・太田和世院長(堤式乳房マッサージ)：8月31日(木) ② 新生児蘇生法Aコースの実施(講師：新生児科医師2名)：9月4日(月) ③ 前田結花(ピラティスインストラクター)：3月1日(木) ④ 常盤洋子教授(群馬大学大学院)：3月8日(木)</p> <p>2) 実施評価</p> <p>① 理解度と研修満足度アンケート調査(自由記述を含む) ② 調査結果をもとに次年度のプログラムの検討を行う。</p>
実施状況及び結果	<p>1) 新人から中堅助産師のスキルアップ研修会の開催</p> <p>第1回：8月31日(木) 9：00～16：10 会場：宮崎県立看護大学 多目的ルーム 講師：堤 尚子(堤式乳房マッサージ法研究所) 太田 和世(かなえ母乳相談処院長)</p> <p>① 「適切な乳房管理」 参加者数 46 名 ② 「自己マッサージ技術」 ③ 「自己マッサージ技術質疑・応答」</p> <p>第2回：9月4日(月) 9：00～15：00 会場：宮崎県立看護大学 臨床学実習室3 講師：森 聡子(福岡山王病院 NICU室長) 中村 公紀(福岡大学病院 小児科医師)</p> <p>「新生児蘇生法「専門」コース講習会」 定員 16 名 参加者数 16 名 ● <u>参加者全員が新生児蘇生法Aコースの資格を修得した。</u></p> <p>第3回：3月1日(木) 13：00～16：10 会場：宮崎県立看護大学 多目的ルーム 講師：前田 結花(ピラティスインストラクター)</p> <p>① 「ピラティス(講義・演習)」 参加者数 27 名 ② 「ピラティス(実践)」</p>

	<p>第4回：3月8日（木）13：00～16：10 会場：宮崎県立看護大学 中講義室3  講師：常盤 洋子（群馬大学大学院 教授）</p> <p>①「出産体験の臨床的意義・産後の女性のメンタルヘルスケア“出産体験の意味づけ”」  参加者数 33名</p> <p>②「産後の女性のメンタルヘルスケア」</p> <hr/> <p><b>学生の参加状況</b>  人数： 実人数（ 15 ）人 延人数（ 58 ）人</p>
<p><b>評価 改善点</b></p>	<p>当事業への参加者は合計122名であった。平成30年度からは、参加者が2交代・3交代勤務の助産師が多いので、事業の日程を年間スケジュール作成し、病院宛に年度初めに提出したいと考えた。また、各回の事業で行ったアンケート結果は、9割以上の参加者が「非常に満足」もしくは「満足」と回答しており、非常に好評であった。改善点としては延岡・日南・都城からの参加者も多く、宮崎市以外の開催を行うことも検討が必要である。</p>
<p><b>次年度 計画</b></p>	<p>平成29年度のアンケート結果の好評を受け、平成30年度は、引き続き(A)の助産実践能力習熟段階（クリニカルラダー）必須研修・ステップアップ研修に合わせて事業内容を検討したいと考えている。開催場所についても、宮崎市内のみならず、延岡・日南地区の開催も考えていく予定である。また、(B)の助産師のストレス要因とソーシャル・サポート内容に関する研究に関しては、倫理審査を通して実施していく予定である。さらに、別科助産専攻の第1期生が修了したので、(C)の他科勤務の潜在助産師・新人助産師の技術向上のためのスキルアップ研修会を開催していく予定である。</p>
<p><b>記載 責任者</b></p>	<p>濱寄真由美</p>

## 2. コンソーシアム専門部会



2-1)

事業名	コンソーシアム宮崎への支援
対 象	高等教育コンソーシアム宮崎加盟機関の教職員、在学生、県内の中・高校生等
事業組織	コンソーシアム専門部会
事業計画	目的： コンソーシアム宮崎の各事業への支援をはかり、本学としても広報活動等に活発に利用していく。
	実施内容： 活動の活性化を図るため、各部会に担当者を配置し、活動状況を共有した全学的協力体制づくりをする。
実施状況 及び結果	<p>平成 29 年度における本学のコンソーシアム専門部会は、下記の高等教育コンソーシアム宮崎（以下、コンソーシアム宮崎）の事業を支援し、実施した。括弧内は本学の担当者。</p> <p>【学生交流事業】－学生インターゼミナール事業(上田)</p> <p>【入口と出口充実事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>－中高生への県内大学情報発信</li> <li>－大学生への就職支援（就活バスツアー）（鬼東）</li> <li>－大学生への就職支援（インターンシップ）（坂下）</li> </ul> <p>【授業充実事業】－授業ネット配信（川北・河野）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>－単位互換（川北・河野）</li> <li>－コーディネート科目事業（川北・河野）</li> </ul> <p>【教育力・研究力向上事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>－合同 FD 事業（橋口）</li> <li>－公募型卒業研究テーマ（甲斐）</li> </ul> <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>－コンソーシアム宮崎運営委員会（大館）</li> </ul> <p>【学生交流事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生インターゼミナール事業</li> </ul> <p>平成 29 のインターゼミナールは宮崎産業経営大学にて開催された。本学からの参加者はなかった。</p> <p>【入口と出口充実事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中高生への県内大学情報発信</li> </ul> <p>コンソーシアム宮崎の依頼にもとづいて情報提供を行い、web 上やサテライト・オフィスでの情報発信を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・就活バスツアー</li> </ul> <p>本学学生に対して、就活バスツアーについての情報提供を行った。参加企業（一般企業中心）とのマッチングもあり、本学学生の参加者は無かった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学生への就職支援</li> </ul> <p>本学学生に対して、就職支援に関する講演会等の情報提供を行ったが看護職志望者の多い本学学生の特性と合わず、本学からの参加者は無かった。</p> <p>【授業充実事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コーディネート科目</li> </ul> <p>宮崎公立大学を会場に 10 月 7 日から 11 月 11 日まで「宮崎の郷土と文化」のテーマで実施された。本学からは 7 名が履修した。全 15 回の授業のうち 1 回（10 月 7 日）を本</p>

	<p>学が担当した。講師は大館真晴教授で、演題は「それぞれの海幸山幸神話－古事記・日本書紀の比較から－」であった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・単位互換 本学からは、「宇宙地球科学」（小河准教授）、「宮崎の文化」（大館教授）の2科目を提供した。</li> </ul> <p>【教育力・研究力向上事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・合同FD事業（橋口） 「高等教育コンソーシアム宮崎FD研修会」と題した、FD研修会が、宮崎大学にて7月21日に、宮崎国際大学にて7月22日に開催された。参加校は、宮崎大、公立大、看護大、南九大、産経大、国際大、南九短大、学園短大、都城高専であった。本学から21日10名、22日5名の教職員が参加した。テーマは、「DP・CP・APに対応した教育のインプットと成果の評価」であった。講演後、活発な討議が行われた。また、9月29日にFD事業実施委員会に参加し、各大学のFD取り組みの報告及び情報交換を行った。</li> <li>・公募型卒業研究テーマ事業 平成29年度については、教務委員会で協議を行い、本学のカリキュラムスケジュールとあわないなどの理由で参加を見送ることとなった。</li> </ul> <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コンソーシアム宮崎運営委員会 コンソーシアム宮崎運営委員会（年間3回）に参加し、コンソーシアム宮崎の企画運営に対して協力を行った。</li> </ul>
	<p><b>学生の参加状況</b> 人 数： 実人数（ ）人 延人数（ ）人</p>
<p><b>評価改善点</b></p>	<p>コンソーシアム宮崎の事業に対して、本学は協力可能な事業に関して、積極的に協力している。ただし、就職バスツアー、就職に関する講演会、単位互換、公募型卒業研究テーマ事業に関しては、本学学生の参加が無い。理由は看護職志望者が多いという、本学とのマッチングによると考えられる。来年度はコンソーシアム宮崎運営委員会にて、その点を報告し、善処を求めたい。</p>
<p><b>次年度計画</b></p>	<p>平成30年度においても、平成29年度と同様に、コンソーシアム宮崎の事業に協力を行っていく。</p>
<p><b>記載責任者</b></p>	<p>大館 真晴</p>

### 3. 認定看護管理者教育課程（サードレベル）



3-1)

事業名	認定看護管理者教育課程（サードレベル）
対 象	看護職者
事業組織	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 宮崎県立看護大学看護研究・研修センター（小野、田中、日高、杉田）</li> <li>* 宮崎県看護協会（中島）</li> <li>* 宮崎県医療薬務課</li> </ul> <p style="text-align: right;">※魅力ある大学づくり・人づくり事業として実施</p>
事業計画	<p><b>【目的】</b></p> <p>宮崎県立看護大学を核として、県内どこでも専門性の高い看護を受けることができる体制づくりを進めるため、質の高い組織的看護サービスを提供できる認定看護管理者を育成し、少子高齢化に対応した地域づくりの推進を図る。</p>
	<p><b>【実施内容】</b></p> <p>1 認定看護管理者教育課程（サードレベル）企画準備会の開催  目 的：認定看護管理者教育課程（サードレベル）開設に向け、本学内で必要な事項を協議・検討する。  構成員数：7名 開催回数：年5回（平成29年4月14日～8月8日）</p> <p>2 認定看護管理者教育運営委員会の設置・開催  目 的：認定看護管理者教育課程として質の維持、向上を図る。  審議事項：教育課程の企画・運営・評価、入学者の選考、合格者の決定、履修及び評価、修了等に関する事項  構成員数：7名 開催回数：年5回（平成29年7月4日～平成30年3月末）</p> <p>3 認定看護管理者教育課程（サードレベル）開設・運営  目 的：多様なヘルスケアニーズを持つ個人、家族及び地域住民に対し、質の高い組織的看護サービスを提供することを目指し、看護管理者の資質と看護の水準の維持及び向上に寄与することにより、保健医療福祉に貢献する。  教育期間：平成29年10月6日（金）～平成30年2月9日（金）  全34日間〔186時間〕 週末を利用した分散型で実施  定 員：15名</p>
実施状況及び結果	<p>1 認定看護管理者教育課程（サードレベル）企画準備会の開催  開催回数：年4回（4/14, 5/23, 6/27, 8/8）</p> <p>2 認定看護管理者教育運営委員会の設置・開催  開催回数：年5回（7/4, 10/6, 12/7, 2/9, 3/13）</p> <p>3 認定看護管理者教育課程（サードレベル）開設・運営  研 修 生：17名（女性16名 男性1名、所属病院数17：県内16 県外1）  開催日数：34日間〔186時間〕（台風にて2日間日程変更あり）  修了判定：第5回教育運営委員会（3/13）にて判定、合格者：17名  ※ 日本看護協会認定審査 筆記試験日：平成30年5月17日（木）</p>
	<p><b>学生の参加状況</b></p> <p>人数： 実人数（ 0 ）人 延人数（ 0 ）人</p>
評価改善点	<p>◇県内16病院における看護部長、副看護部長等を対象とした本教育課程は、研修期間が10月から2月までの長期間に渡り、講義ではグループワークが多く取り入れられたことから研修生間の交流、連携が深まる内容であった。また、センターとしても研修生、講師、看護大学、看護協会との相互の連携が深まるよう意識的に働きかけたことから、研修修了後もネットワークを活用し、資質の向上に向けた情報交換等がなされている。</p> <p>◇研修生が定員オーバーとなったこと、講義内容に演習・グループワークが多く取り入れられたことから、認定看護師教育課程研修室では教室が狭く、可能な範囲で多目的ホールを活用した。次年度は研修生数等を考慮した研修室の確保が必要である。</p>

	◇修了日直前に受講生 1 名に履修時間不足が発生した。現行の教育課程細則では年度内に修了要件を満たすことができないことから、認定看護管理者教育運営委員会において、教科目のねらい、教育内容等をふまえ補講実施の可否について協議した結果、補講実施可となり修了することができた。次年度に細則を一部改正予定。
次年度 計画	より円滑な教育課程の運営に取り組んでいく。
記載 責任者	田中美幸

#### 4. センターが管轄するプロジェクト



## 4-1)-①

事業名	魅力ある大学づくり・人づくり事業：看護師等の県内定着促進事業
対 象	看護大学生 および Uターンを希望する看護職者（既卒者）
事業組織	宮崎県医療薬務課 看護師等の県内定着促進事業運営委員会：宮崎県立看護大学看護研究・研修センター（小野、日高、杉田）、就職相談員（山口）、就職対策委員会及び3年生・4年生学年顧問（中村、甲斐）、事務局（鬼束、河野）
事業計画	目的： 県立看護大学を核として、県内どこでも専門性の高い看護を受けることができる体制づくりを進めるため、卒業生等の県内就職率 50%を目標とするとともにUターン支援を強化し、少子高齢化に対応した地域づくり推進を図る。 実施内容： 県立看護大学学生及び県内へのUターン希望する看護師等に対して、県内就労を支援する。
実施状況及び結果	<p>教職員によって組織された就職対策委員会での学生就職支援対策並びに就職相談室での個別の相談や助言を中心に実施した。平成29年度卒業生の県内就職者は37名、県内就職率は41.1%だった。（4/1現在）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 就職相談室の環境整備 <ol style="list-style-type: none"> <li>① 採用に関する情報及び就職情報ファイル等の管理～前年度・現年度</li> <li>② 「就職採用試験受験結果報告書」の管理～平成18年以降分保存</li> </ol> </li> <li>2) 就職情報の収集・提供に関すること <ol style="list-style-type: none"> <li>① 採用に関する新着情報等の広報～県内並びに九州管内分を主に掲示</li> <li>② 県内医療機関の採用日程・病院局ナースガイダンス&amp;バスツアー日程・インターンシップ日程の広報→バスツアー22名参加</li> </ol> </li> <li>3) 学生の就職相談に関すること <ol style="list-style-type: none"> <li>① 就職ガイダンスへの参加～H29.4/28.：92名4年次、H29.12/21.：96名3年次</li> <li>② 模擬面接～H29.7/6. 県立病院受験予定者12名（就職対策委員会）その他の希望者14名</li> <li>③ 県内医療機関合同就職説明会の参加～H30.3/8.：医療機関39施設、学生97名</li> <li>④ 学生からの就職相談の対応～相談者：126名（就職相談室利用者：379名）</li> <li>⑤ 相談内容の記録や関係者への報告～小野センター長・川村就職対策副委員長へ</li> </ol> </li> <li>4) 就職対策委員会との連携に関すること 就職対策委員会への出席～4/27, 6/5, 9/4, 10/23, 11/20, 12/18, 1/15, 2/19, 3/19(9回)</li> <li>5) 既卒者の就職支援に関すること～4名の卒業生相談対応 再就職支援についての教員への調査（学部にて3月実施） Uターンに関する医療機関との情報交換～潤和会記念病院(10月)、県内医療機関合同就職説明会参加施設へのアンケート調査(3/8)～15施設32名のUターン者</li> <li>6) 医療機関の来学に関すること 職員採用に関する情報や卒業生の活躍状況を収集→15施設(県内:10 県外:5)</li> </ol> <p>学生の参加状況 人 数： 実人数（ ）人 延人数（786）人*ランチミーティング96名含む</p>
評価改善点	<p>県内就職率41.1%で目標達成できなかった。（県内出身者割合では65.5%、別科助産専攻は13名86.7%）就職対策委員会と連携を図り教員と協働して就労支援に取り組んだ。相談室に県内の主要な医療機関情報を整備し就職情報の収集・提供を行い、個別の相談に対応した。体調やメンタル面の事例は、保健室看護師並びに就職対策副委員長や学年顧問へ報告した。次年度、適宜スクールカウンセラーとの連携も必要だと考える。就職ガイダンス、県内医療機関合同説明会や本年度初の「知事とのランチミーティング」を開催した。</p>

	同時に、魅力的な職場のPRや活躍している卒業生からの情報も発信した。次年度も学生の県内就業への意識が向上するために就職ガイダンス、医療機関合同説明会等を継続していく。既卒者4名の相談の内1名がUターン者であった。同窓会のWEB掲載後の相談で、ナースセンターと連携を図り対応した。今後も、医療機関における本学卒業生のUターン者の状況把握や卒業後の就職・転職の相談を継続していく。
次年度 計画	平成30年度も前年度同様に、就職対策委員、学年顧問と連携を図りながら、県内就職支援を継続していく。
記載 責任者	山口 裕子

## 4-1)-②

事業名	魅力ある大学づくり・人づくり事業：地域志向の看護力を備えた訪問看護師養成事業「地域志向の看護力育成事業」
対象	看護職 等
事業組織	<p>○宮崎県立看護大学 宮崎県医療薬務課 宮崎県看護協会 宮崎県ナースセンター</p> <p>○地域志向の看護力育成推進委員会</p> <p>宮崎県立看護大学（川原瑞代、小野美奈子、河野朋美）、宮崎県立看護大学看護研究・研修センター（田中美幸）、宮崎県医療薬務課（松尾祐子、村田充生、長谷川久美子）・介護長寿課（黒木真紀）、宮崎県看護協会在宅支援室（田原祐子、佐伯綾子）宮崎県ナースセンター（荒瀬みえ）、訪問看護ステーション（荒川文子、坂本郁代、勝吉千穂子、岩満文子、長瀬奈保美）、宮崎県立宮崎病院（東美代子）、宮崎市立田野病院（奥村智子）、竹内病院医療連携室（長友あかね）、日南市地域包括支援センター（内田百合子）</p>
事業計画	<p>目的：</p> <p>宮崎県の看護職の地域を志向した看護力の現状と課題、および地域特性とニーズをふまえ、地域志向看護教育プログラムの開発、および訪問看護ステーションの機能強化を図ることにより、地域包括ケアの中で力を発揮できる看護師を育成する。</p>
	<p>実施内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 地域志向の看護力育成推進委員会の開催</li> <li>2) 地域志向看護教育プログラム開発</li> <li>3) 宮崎県訪問看護師養成研修体系に添った研修企画・実施・評価</li> <li>4) 新卒訪問看護師育成スタートアップ標準プログラムの実施と評価</li> <li>5) 新卒訪問看護師育成推進に向けた関係機関の理解促進と連携（広報活動の強化）</li> <li>6) 機能強化型訪問看護ステーションを中心とした訪問看護人材育成のための教育・研修機能充実のための体制整備と評価</li> <li>7) 公開講座の開催</li> <li>8) 学習会の開催</li> <li>9) その他</li> </ol>
実施状況及び結果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 地域志向の看護力育成推進委員会等の開催 4回（6/27, 9/28, 12/19, 3/19）開催し、宮崎県訪問看護師養成研修体系に添った研修企画・実施・評価、訪問看護ステーション機能強化等について協議を行った。</li> <li>2) 地域志向看護教育プログラム開発 「在宅看護学（論）実習の実態と課題に関する検討」について、実習指導者と臨床指導者に対する調査研究（8月～3月）を実施し基礎資料を収集した。</li> <li>3) 宮崎県訪問看護師養成研修体系に添った研修企画・実施・評価 ・コアカリキュラム〈看護大担当〉 （看護大会場：8/28-9/1、千代田病院会場：9/4-9/8 参加者 21名） 訪問看護の理解、地域連携に向けた組織的取組の推進などの効果が見られた。 ・ステップ1、2、管理者研修〈ナースセンター担当〉の評価と情報共有を行った。</li> <li>4) 「新卒訪問看護師育成スタートアップ標準プログラム」の実施と評価 新卒訪問看護師（2名）の教育を所属の訪問看護ステーションや研修機関（県立宮崎病院、宮崎市立田野病院、宮崎市介護老人保健施設さざんか苑）と協働で実施し、目標に到達した。</li> <li>5) 新卒訪問看護師育成推進に向けた関係機関の理解促進と連携（広報活動の強化） ・MRT ニュースNext（10/16）、UMK みやざきゲンキ TV（8/20）、UMK キラメク★ひなたびと～笑顔がつなぐ介護のしごと～（10/21）放映、宮日新聞（1/8）掲載 ・宮崎県看護協会広報誌なでしこ掲載 ・県医師会関係者への説明（5月） ・県内看護師養成所（7施設）への説明（6・7月） ・県医師会市郡医師会長会議資料提供（2月）</li> </ol>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県訪問看護ステーション連絡協議会（訪問看護ステーション管理者）説明（1月）</li> <li>・宮崎大学就職・進学ハンドブック H30 年度版 へ掲載 他</li> <li>6) 機能強化型訪問看護ステーションを中心とした訪問看護人材育成のための教育・研修機能充実のための体制整備 平成 30 年度から、県看護協会において実施できるよう協議、整備した。</li> <li>7) 公開講座等の開催 <ul style="list-style-type: none"> <li>・公開講座「もっと知る もっと良くなる 継続看護」 (2/11, 千代田病院会場, 講師：角田直枝氏（茨城県立中央病院看護局長）中島由美子氏（医療法人恒貴会訪問看護ステーション愛美園管理者）, 参加者 57 名)</li> <li>・訪問看護人材確保と育成に関する意見交換会 (2/11, 千代田病院会場, 参加者 10 名)</li> <li>・訪問看護ステーション機能強化に関する意見交換会 (2/12, ホテル高千穂会場, 参加者 6 名)</li> </ul> </li> <li>8) 学習会の開催 <ul style="list-style-type: none"> <li>・新卒訪問看護師に対する学習会 4 回開催 (5/25, 8/4, 11/30, 3/2)</li> </ul> </li> <li>9) 看護師養成所における地域志向看護教育の充実、強化 <ul style="list-style-type: none"> <li>・「在宅看護学（論）実習の実態と課題に関する検討」について、県内看護師養成所の在宅看護学（論）担当教員に対するアンケート調査を実施した。また、県立看護大学の実習担当教員に対するインタビュー調査を実施し、基礎資料を収集した。</li> </ul> </li> <li>10) その他 平成 30 年 4 月より新卒訪問看護師 1 名が県内訪問看護ステーションへ就職。</li> </ul>
	<p><b>学生の参加状況</b></p> <p>活動内容：公開講座の運営</p> <p>人 数： 実人数（1）人 延人数（1）人</p>
<p style="text-align: center;"><b>評価 改善点</b></p>	<p>「地域志向の看護力育成推進委員会」を開催し、宮崎県訪問看護師養成研修体系に添った研修を予定通り実施・評価した。関係機関の協力を得、臨床研修（2 か月）を含めた新卒訪問看護師育成標準プログラムを実施し、このプログラムと職場内教育により、新卒看護師 2 名に対する 1 年目の育成目標を達成した。さらに、広報活動強化や関係者への説明の機会を設けたことにより訪問看護及び人材育成に関する県医師会はじめ関係機関の理解が高まった。前年度評価により公開講座を日向市、意見交換会を高千穂町で実施し、県北地域の医療機関、訪問看護のステーション等が継続看護の在り方や人材育成や組織改革を考える機会となった。機能強化型訪問看護ステーションを中心とした訪問看護人材育成のための研修体制は、県看護協会（在宅支援室）が担当することで調整することができた。また、今年度も新卒訪問看護師就業者を輩出できた。今後も宮崎県訪問看護師養成研修の体系や育成プログラムの内容・方法について検証を進め、県、県看護協会・県ナースセンター、訪問看護ステーション、医療機関との協働を進める。</p>
<p style="text-align: center;"><b>次年度 計画</b></p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 地域志向の看護力育成推進委員会の開催</li> <li>2) 地域志向看護教育プログラム開発</li> <li>3) 宮崎県訪問看護師養成研修体系に添った研修企画・実施・評価</li> <li>4) 新卒訪問看護師育成スタートアップ標準プログラムの実施と評価</li> <li>5) 新任期訪問看護師育成標準プログラムの開発</li> <li>6) 新卒訪問看護師育成推進に向けた関係機関の理解促進と協働</li> <li>7) 機能強化型訪問看護ステーションを中心とした訪問看護人材育成のための教育・研修機能充実のための体制整備と評価</li> <li>8) 公開講座等の開催</li> <li>9) その他</li> </ol>
<p style="text-align: center;"><b>記載 責任者</b></p>	<p>川原 瑞代</p>

4-2)

事業名	委託事業) 保健師の力育成事業
対 象	県内保健師
事業組織	宮崎県立看護大学：小野美奈子、川原瑞代、日高美加子、田中美幸 都城保健所：塩田栄子（副主幹）、延岡保健所：木下明美（副主幹）、高鍋保健所：榎田恵美（副主幹）、日向保健所：吉岡泰代（副主幹） 延岡市役所：成地富美（主査）、都城市役所：栗山佐代子（主幹） 県統括保健師：工藤裕子（健康増進課課長補佐） 県医療薬務課：松尾祐子（副主幹）、田多良佳代（主任技師） 退職保健師：山内裕子（宮崎県後期高齢者医療広域連合）、茂美代子（延岡市役所）
事業計画	目的： 「改訂版宮崎県保健師現任教育マニュアル」に基づく段階別保健師研修を行い、県民の健康の維持向上と健康的な地域社会の創造に寄与できる保健師の育成及び保健師活動を支援する。
	実施内容： 1) 宮崎県段階別保健師研修運営委員会を組織し、以下の活動を行う。 （1）宮崎県段階別保健師運営委員会開催 （2）リーダー保健師研修企画・運営・評価、研究指導 （3）段階別保健師研修の企画・運営支援、講師 ・新任保健師研修Ⅰ ・新任保健師研修Ⅱ ・中堅保健師研修Ⅰ （4）アクションプラン等の個別指導 （5）コンサルタント登録及び段階別保健師研修への派遣 （6）出前公開講座 （7）その他
実施状況及び結果	1) 宮崎県段階別保健師研修運営委員会を組織し、以下の活動を行った。 （1）宮崎県段階別保健師運営委員会開催（5/26. 8/29. 12/20. 3/8：宮崎県立看護大学） （2）リーダー保健師研修企画・運営・評価、研究指導 （受講生3名、7/25. 8/24. 9/2. 1/30. 2/20：宮崎県立看護大学） （3）段階別保健師研修の企画・運営支援、講師 ・新任保健師研修Ⅰ（受講生22名、7/27. 8/10. 9/12. 1/21. 12/8. 1/31：都城保健所他） ・新任保健師研修Ⅱ（受講生12名、7/24. 8/31. 12/8. 1/30：延岡保健所他） ・中堅保健師研修Ⅰ（受講生14名、7/31. 8/22. 9/14. 11/7. 11/27. 1/31. 2/14：高鍋保健所他） （4）アクションプラン等の個別指導、日向管内保健師研修会での報告会支援（2/22） （5）コンサルタント登録2名及び段階別保健師研修への派遣 （6）宮崎県段階別保健師研修運営委員会における出前公開講座 （都城保健所主催、3/12開催、参加者40名）  【講演及びグループワーク】 演 題：災害時における保健師の初動対応について～平時だからこそ備えを考える 講 師：堀之内 広子 氏（元鹿児島県保健師） （7）その他  学生の参加状況 人 数： 実人数（ 0 ）人 延人数（ 0 ）人

<p style="text-align: center;"><b>評価 改善点</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学主体から県主体へと移行したので、段階別保健師研修運営委員会を企画時・中間評価時・最終評価時と節目ごとに開催しながら保健所での研修運営が可能となるようにサポートした。保健所ごと、担当者ごとの工夫を凝らした研修運営が可能となっていた。</li> <li>・改訂版宮崎県現任教育マニュアルに沿って研修が実施できた。研修ごとに公開講座の開催を組み込むことで研修内容が充実した。</li> </ul> <p>&lt;リーダー保健師研修&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■企画評価 <ul style="list-style-type: none"> <li>場所、日程、回数の設定は適切であった。</li> </ul> </li> <li>■実施評価 <ul style="list-style-type: none"> <li>・3名と少人数であったが、毎回全員が出席し、コンサルタントも含めた意見交換ができた。</li> </ul> </li> <li>■結果評価 <ul style="list-style-type: none"> <li>・組織や地域特性の中で、何が保健師活動を発展させる研究なのかと考え、保健師活動を発展させる研究的取り組みのテーマを焦点化することができていた。</li> <li>・リーダーの立場で、課題を職場の仲間と共有し、チームでディスカッションしながら研究を計画的にまとめていくことができた。</li> <li>・目的にそって結果をまとめ、考察を行うことができた。研究を基に業務の改善につなげるヒントを得ることができていた。</li> <li>・報告会及び最終報告書により全員到達度に達していることを確認した。</li> </ul> </li> </ul> <p>&lt;コンサルタントの派遣&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アクションプランの実践過程を、退職保健師又は大学教員と現場保健師の組み合わせで支援した。より細やかな支援が可能となった。</li> <li>・新たに市町村退職保健師のコンサルタントが確保できた。今後の退職保健師のコンサルタント確保が課題である。</li> <li>・アクションプランの成果等について、学会発表等につなげられるよう支援していく。</li> </ul> <p>&lt;出前研修&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・宮崎県段階別保健師研修運営委員会における出前公開講座は都城保健所開催の1か所のみであった。年度当初より働きかけて計画的に開催していくことが必要である。</li> </ul>
<p style="text-align: center;"><b>次年度 計画</b></p>	<p>改訂版宮崎県現任教育マニュアルに沿って段階別保健師研修を実施・支援していく。</p>
<p style="text-align: center;"><b>記載 責任者</b></p>	<p>小野美奈子</p>

4-3)

事業名	地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+事業） 大学間連携による地域ニーズを捉えた宮崎産業人材の育成
対 象	学生
事業組織	宮崎大学、宮崎県立看護大学、宮崎公立大学、九州保健福祉大学、都城工業高等専門学校 COC+学内推進委員会：小野美奈子、大館真晴、川原瑞代、江藤敏治、川村道子、三宅玉恵、長坂猛、鬼束良一、坂下利雄、垂水 稔、高橋和貴子
事業計画	<p>目的： 宮崎県の5高等教育機関が連携し、県や経済団体等と協働して、成長企業の経営理念や成長ノウハウを大学の「知」で産業ごとに見える化し、地域ニーズを捉えた産業人材を養成するために必要な教育カリキュラムについて産業ユニット別改革を行い、「宮崎産業人材育成教育プラットフォーム」を稼働する。また、学生と県内企業とのマッチングを行い、就職を支援する。さらに、異分野連携・融合による地域産業振興に関する研究を推進して学生の地域活動を活性化することにより、地域の新たな雇用創出や県内就職率10%アップを達成する。</p> <p>実施内容： COC+参加大学として、COC+学内推進委員会を組織し、COC+事業への理解を深め、連携大学と情報交換していくとともに、地域産業人材の育成を促進するため、1) 同窓会（卒業生）との連携事業（①卒業生の実践を聞く会の開催②看護技術スキルアップ演習）2) 学生の地域活動の促進（学生参加型地域貢献活動の実施）3) 県内就職・定着事業（①看護師等の県内定着促進事業②県内医療機関との連携による就労支援システムの構築③新卒訪問看護師就職支援プロジェクト事業）を実施する。</p>
実施状況及び結果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) COC+サブコーディネーターとして高橋氏を配置し（12月まで）、関係大学との連絡調整を図るとともに、学内の取り組みを推進した。</li> <li>2) 宮崎大学 COC+事務局から3名、本学の教科別ガイダンスに参加してもらい、1年生、2年生への COC+科目の履修案内を行った。受講者はいなかった</li> <li>3) みやざき COC+地元定着推進室会議に年4回小野他が参加し、大学間連携を深めた。</li> <li>4) COC+科目として、大館先生の「日向神話と神楽」江藤先生の「健康予防医学」を提供し、コンテンツが完成し、授業の配信を行った。</li> <li>5) みやざき COC+キャリアサポート委員会に川村委員が参加し、他大学担当者とともに県内就職課題対策の検討を行った。学生と企業のマッチング機能がないなど、就職受け入れ側と就職希望する学生を輩出する側の課題が浮き彫りとなった(9月)。</li> <li>6) COC/COC+合同シンポジウム 2017IN 西都市（12月）に小野が参加した。シンポジウムでは、温泉などの地域資源を活用した地域活性化の取り組みや人づくりの新たな仕組みについて意見交換された。</li> <li>7) 看護大独自の取り組みとして、①4月と3月に「就職ガイダンス」を開催するとともに、通年を通して、就職相談員による県内就職支援を行った。5月に「卒業生の看護実践を知る会」を開催し、卒業後県内で活躍する卒業生を4名招き、各々の実践を紹介してもらった。在校生それぞれの学習段階に応じたキャリア形成の一助となった。②12月に4年生の選択科目である「卒業直前技術演習プログラム」を開講し、県内に就職している卒業生9名が支援者として参加し、看護技術修得への支援を行うとともに、在学生との交流を深め、就職へのレディネスを高めた。③3月に「県内医療関連施設合同就職説明会」を開催し、県内医療機関から38施設が参加した。3年生を中心とした全学生に各医療機関が、各医療機関の特徴等について説明を行うとともに、個別相談も実施された。この機会を活用して、医療機関と大学相互の情報収集や意見交換を行った。④平成29年度訪問看護ステーションに就職した新卒訪問看護師2名が、新卒訪問看護師就職支援プロジェクト事業で開発した1年間の「臨床研修プログラム」に即した研修が終わり、評価を行った。概ね到達度に達していることが確認できた。平成29年度も1名</li> </ol>

	<p>の卒業生が新卒訪問看護師として就職することになり、新規就職先として新たに 1 か所の訪問看護ステーションを開拓することができた。</p> <p><b>学生の参加状況</b>  活動内容：  人 数： 実人数（ 0 ）人 延人数（ 0 ）人</p>
<b>評価 改善点</b>	<p>他大学や県との連携を深めながら活動できた。地方創生事業と連動させながら就職率向上に向けて努力できた。また、COC+科目を看護大学からも提供でき、参加大学として貢献できた。</p>
<b>次年度 計画</b>	<p>平成 29 年度に引き続き、1, 2 年生を対象に、COC+科目の受講を勧めるよう、ガイダンス時に説明会を開催する。特に地域枠で入学した学生への受講支援を行い、地元定着を支援していく。さらに県内就職・定着事業や同窓会との連携事業を行い、地域産業人材の育成を継続する。</p>
<b>記載 責任者</b>	<p>小野美奈子</p>